

2024年度

講義概要

保育・幼児教育学科

学籍 番号		氏名	
----------	--	----	--

大阪健康福祉短期大学

《講義概要の見方》

★講義概要（シラバス）とは、講義の内容や予定、到達目標や評価の方法などの授業計画がまとめられた資料のことです。今年度1年生を対象に開講される科目を目次にそって記載しています。講義概要の各項目の見方は、下記を参照してください。

（1）講義等情報

①授業の種類

主にどのような形態で授業が展開されるのかを示します。

講義…教員が説明したり、学生と対話したりすることを通して学習内容を伝える方法

演習…模擬的な対象を設定して、体験的に学習内容を伝える方法

②授業担当者

科目によっては複数の教員が担当する授業があります。オムニバス形式の授業では、複数の教員が単独で登壇して授業を展開します。

③配当

開講される時期を表しています。

④必修・選択

卒業や資格・免許を取得するにあたり、履修が必要かどうかを示しています。

卒業必修…卒業するために必ず履修しなければならない科目

資格必修…保育士資格を取得するために必ず履修しなければならない科目

幼免必修…幼稚園教諭二種免許状を取得するために必ず履修しなければならない科目

選択必修…保育士資格を取得するために指定した科目

選択…資格や免許取得に関係のない科目

（2）授業の目的・ねらい

当該授業の学習を通して学生に期待する学習内容を示しています。

（3）授業修了時の達成課題（到達目標）

授業終了時まで学生に出来るようになってほしい事柄を示しています。

（4）準備学習の内容

各回の授業を行うにあたり、授業計画をみて事前に学んでおいた方がよい知識・情報が必要と思われるものについて記載しています。

(5) 授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法

授業の目的・ねらい、到達目標に応じて具体的なテーマ、内容を示しています。授業内での発表や課題解決型学習、グループワーク等の授業の進め方や方法を記載しています。

(6) 試験

所定の回数の授業を実施した後に行われる試験について示しています。「なし」や空欄の場合、授業内評価によって評価が行われることを示しています。

(7) 使用テキスト

授業で実際に使用するテキストを明記しています。毎回の授業で必ず準備する必要があります。

(8) 参考文献

必ずしも授業内で使用しませんが、授業内容に関連して読んでおいたほうがよい文献を提示しています。

(9) 試験の方法と学習成果の評価基準

①平常試験

ア、到達度の確認

平常授業時における提出物や講義のまとめおよび筆記またはレポートにより学力確認を行います。

イ、実技・作品発表等

平常授業時に講義のまとめおよび実技・作品の発表を行います。

②試験

ア、筆記試験

授業終了後に所定の期日に筆記による試験で評価を行います。

イ、レポート

授業終了後に期日を設け、指定された場所へ提出されたレポートによって評価を行います。

ウ、実技試験

授業終了後に所定の期日に実技による試験で評価を行います。

エ、面接試験

授業終了後に所定の期日に口頭による面接試験で評価を行います。

(10) フィードバックの方法

試験やレポート等の課題に対するフィードバックの方法を示しています。

目 次

< 1 年次 >

【教養科目】

卒業必修科目

日本国憲法	1
統計基礎	3
文章表現	4
情報教育入門（機器操作を含む）	6
英語	8
体育（講義）	10
体育（実技）	12

選択科目

心理学概論	14
コミュニケーション演習	15

【専門科目】

卒業必修科目

保育原理	16
教育原理	18
発達心理学	20
保育内容（総論）	22
表現技術Ⅰ	24
表現技術Ⅱ	26
音楽Ⅰa（理論・声楽）	28
音楽Ⅱa（器楽）	30

幼稚園教諭免許必修科目

教育課程論	32
教育実習指導Ⅰ	34

保育士資格必修科目

子ども家庭福祉	36
社会福祉論	38
障がい者福祉論	40
社会的養護Ⅰ	42
子ども家庭支援の心理学	44
子どもの保健	46
子どもの食と栄養	48
保育の計画と評価	50

乳児保育Ⅰ	52
乳児保育Ⅱ	54
障がい児保育Ⅰ	56
保育実習指導Ⅰa（保育所）	58
保育実習指導Ⅰb（児童福祉施設）	61
保育実習Ⅰa（保育所）	63
保育実習Ⅰb（児童福祉施設）	65

幼稚園教諭免許必修科目／保育士資格必修科目

教職論	67
幼児と表現	69
幼児と言葉	71
幼児と環境	73
幼児と健康	75
保育内容（表現）	77
保育内容（言葉）	79

幼稚園教諭免許必修科目／保育士資格選択必修科目

特別支援教育論	81
---------	----

保育士資格選択必修科目

調理実習	83
子どもの造形表現	85

【本学独自科目】

卒業必修科目

地域実践演習Ⅰ	87
地域実践演習Ⅱ	89
キャリアアップ教育Ⅰ	90
キャリアアップ教育Ⅱ	92
保育基礎ゼミⅠ	94
保育基礎ゼミⅡ	96

選択科目

音楽Ⅰb（理論・声楽）	98
音楽Ⅱb（器楽）	100

科目ナンバリング

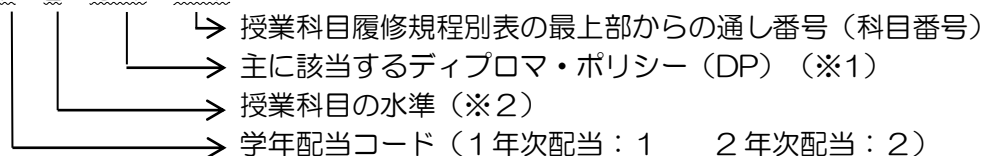
当該授業科目の教育課程内の位置づけを表す番号です。授業科目に番号を付し分類することで、学修の段階や順序等を表し、教育課程の体系性を明示する仕組みです。

講義概要の右下に各科目のナンバリングを示しています。

カリキュラムへのナンバリング

(例)

日本国憲法：1-L-34-01



(※1) ディプロマ・ポリシー

コード	該当 DP
10	DP1
12	DP1+DP2
20	DP2
30	DP3
34	DP3+DP4
40	DP4
50	全 DP

(※2) 授業科目の水準

コード	水準	内容
L	教養	教養科目
B	基礎レベル	専門科目 知識・理解
A	応用レベル	専門科目 方法・技能
PC	実践レベル	専門科目 実習・実技 キャリア関連科目
S	ゼミ	ゼミ科目

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 日本国憲法		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 永松 正則	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもと子育てにやさしい社会を作るために、社会の仕組み、とくに基本的人権、法制度を理解し説明できる。					主に対応するDP 3+4
[授業全体の内容の概要] 生命身体を守り、個人の自己決定を尊重する福祉の実現のために、憲法が保障する基本的人権（私人間における人権問題を含む）と統治機構について学びます。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）] 憲法が保障する基本的人権について、とくに子どもや保護者の権利という視点から、また保育士、幼稚園教諭という視点から説明できる。 人権侵害、権利自由の侵害に関する司法的・行政的救済場面において、論理的に自分の考えを展開することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 憲法総論 憲法の学習を始める上で必要となる近代憲法史、憲法の基本原理である「立憲主義」、「国民主権」、「平和主義」、「基本的人権の尊重」などを概観し、授業の射程を明らかにします。					
2) 基本的人権総論 個々の人権規定に共通する以下のテーマについて解説します。(1) 人権享有主体、(2) 人権の分類※小テストあり。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
3) 幸福追求権 「新しい人権」の源となっている幸福追求権について解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
4) 法の下での平等 何が憲法が要求する「平等」なのか。尊属殺重罰規定、女性の再婚禁止期間規定、夫婦別姓制度など具体的な裁判例を通じて明らかにしていきます。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
5) 自由権 思想良心の自由、信教の自由、職業選択の自由などの自由権について解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
6) 表現の自由 自由権の中でもとりわけ重要な表現の自由について解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
7) 生存権 何が「健康で文化的な最低限度の生活」なのか、朝日訴訟などの裁判を通じて明らかにします。また生存権を具体化している諸法律について紹介します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
8) 社会権 教育を受ける権利、労働基本権などの社会権について解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
9) 受益権（国務請求権）、参政権 第3回から第8回までで扱わなかった人権について、最高裁判所の違憲判決を通じて解説します。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
10) 基本的人権のまとめ 第9回までの内容をまとめ、人権の限界について考えます。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
11) 立法と国会 国会の仕組みと権能などを明らかにします。			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)		
12) 行政と内閣 議院内閣制と大統領制の違い、内閣の組織・権限、内			〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料		

閣総理大臣の権限などについて解説します。	中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)
13) 司法と裁判所 日本の裁判制度と裁判組織などについて解説します。	〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)
14) 違憲審査制 最高裁判所の違憲判決を通じて、日本の違憲審査制の特徴について解説します。	〔事前事後学習〕担当者が事前配布した資料中にある【判例番号】の裁判例を教科書で確認する。(1時間)
15) 到達度の確認	〔事前学習〕授業内で配布した資料・小テストを確認する。(1時間)
[使用テキスト] 授業で扱う裁判例がコンパクトに解説されている野中・江橋『憲法判例集(第12版)』(有斐閣新書・2022)を指定します。 ※授業は担当者が用意する資料にそって行います。	
[参考文献] 定評のある教科書として多くの大学で指定されている芦部信喜『憲法(第7版)』(岩波書店・2019)があります。	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認(100%)	第15回授業内で講義内容の理解度を確認(筆記)し、成績評価します。
②実技・作品発表等()%	
【定期試験】	
①筆記試験()%	
②レポート()%	
③実技試験()%	
④面接試験()%	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 全授業終了後、正答を開示します。	
[備考] GoogleClassroomを用いて小テストを行います。ログイン可能な機器(パソコンやスマートフォン)を持参すること。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-34-01

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 統計基礎		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 保育に関する様々な数値的データから、現象や実態を読み解くために必要な統計の知識や手法を身に付ける。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 統計手法を正しく解釈する力を身に付けるために、知識の習得だけでなく、簡単なデータから統計の作成をおこなう。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
1. データ上の数値の特性について、その意味を理解し、自ら統計情報を適切な図表や数値で表現できる。 2. 図表から情報を正確に読み解くことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 統計を学ぶ意義/データ毎の尺度の種類を理解する。					
2) グラフの種類と役割/平均とパーセント/変化量と変化率					
3) データの代表値とばらつき、データから代表値を求める。			授業で示したデータを整理する (1時間)		
4) 統計の中の関係 (因果関係と相関関係、見かけ上の相関)					
5) データの信頼性/定義と数値の関係					
6) 母集団と標本/正規分布					
7) 調査における質問の仕方			質問項目の検討 (2時間)		
8) 統計における仮説の考え方と危険率					
[使用テキスト]					
[参考文献] 宮城重二, 『改訂やさしい実践統計学 数式を使わない「エクセル」併用書』, 2002, 光生館。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (%)					
② 実技・作品発表等 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (100%)		到達目標の内容に関して問う問題で評価する。			
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 試験の解説を google classroom で示します。					
[備考] ・大学の配布するアカウントで google classroom にログインできる状態で授業に臨んでください。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-03

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 文章表現		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 橋本 祐治	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元小学校教員としての経験を活かし、多様な文章の書き方について講義する。				
[授業の目的・ねらい] 社会人としての日本語についての知識・教養と、表現する力を高めるために、自ら感じたことや考えたことを自覚し、それを目的に合わせて適切に文章で表現することができるようになる。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 継続的な短作文や俳句作り、日本語基礎知識の小問題をとおして文章表現に係る基盤を培うとともに、目的に応じた様々な種類の文章について解説し、それらを書くことができるようにする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・日本語の基礎知識を身に付けるとともに、目的に応じた様々な種類の文章の書き方を説明する。 ・限られた字数の中で「保育者を目指す者としての意見文」を書く方法を理解し、実作する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 授業の達成課題、準備学習の内容、授業の進め方等について見通しを持つ。 ・「これまでの作文学習を振り返る」文章を書き、自分の文章表現力の現状を理解する。 ・200字作文の意義及び次回のテーマと条件を理解し、実作する。(第6回まで)			・「これまでの作文学習を振り返る」文章を書く準備をする。(1時間) ・200字作文のテーマについて取材する。(30分)		
2) 表現の基礎を理解する。その1 ・印象のよい文章を書くために、表記と言葉づかいの基本を理解する。			・200字作文のテーマについて取材する。(30分) ・テキスト p.10~17 を読む。(30分)		
3) 表現の基礎を理解する。その1 ・たくさんの情報を整理し、見やすく示す方法を理解する。			・200字作文のテーマについて取材する。(30分) ・テキスト p.18~25 を読む。(30分)		
4) 表現の基礎を理解する。その1 ・重要な情報を確実に伝えるための効果的な方法を理解する。			・200字作文のテーマについて取材する。(30分) ・テキスト p.26~31 を読む。(30分)		
5) 表現の基礎を理解する。その1 ・メールや手紙の基本的な書式やマナーを理解し、作成する。			・200字作文のテーマについて取材する。(30分) ・テキスト p.32~37 を読む。(30分)		
6) 表現の基礎を理解する。その2 ・読みにくい文について、読みにくくなる理由を理解し、読みやすい文の書き方を理解する。			・200字作文のテーマについて取材する。(30分) ・テキスト p.40~45 を読む。(30分)		
7) 表現の基礎を理解する。その2 ・敬語の基本的な仕組み、場面や人に合った適切な表現方法を理解する。 ・「観察日記+俳句」の意義を理解し、実作する。(第7. 8. 11~14回)			・五感を働かせて季節感のある自然、人の様子、できごとについて取材する。(30分) ・テキスト p.46~51 を読む。(30分)		
8) 表現の基礎を理解する。その2 ・依頼のメールや手順の説明など、読んだ人がスムーズに行動できる文章の書き方を理解する。			・五感を働かせて季節感のある自然、人の様子、できごとについて取材する。(30分) ・テキスト p.52~59 を読む。(30分)		
9) 表現の基礎を理解する。その3 ・新聞記事の文章の書き方を理解する。 (地元新聞社記者による)			・朝刊1日分の新聞記事を読む。(2時間)		
10) 表現の基礎を理解する。その3 ・提出された「新聞記事」の文章について、よい点や改善点を理解する。 (地元新聞社記者による)			・新聞記事の書き方による文章を書く。(1時間)		

11) 表現の基礎を理解する。その3 ・分かりにくい文章の問題点を理解し、分かりやすい文章の書き方について理解する。	・五感を働かせて季節感のある自然、人の様子、できごとについて取材する。(30分) ・テキスト p.70~73 を読む。(30分)
12) 表現の基礎を理解する。その3 ・レポートや論文のような客観的な文章を書く際の決まりを理解する。	・五感を働かせて季節感のある自然、人の様子、できごとについて取材する。(30分) ・テキスト p.74~79 を読む。(30分)
13) 表現の基礎を理解する。その3 ・就職活動における自己PRについて理解し、分かりやすく魅力的で、評価につながる自己PRの書き方を理解する。	・五感を働かせて季節感のある自然、人の様子、できごとについて取材する。(30分) ・テキスト p.90~97,146~151 を読む。(1時間)
14) 意見文の書き方を理解する。 ・学修のまとめとして、不特定多数の読者を対象にした、保育者を目指す者としての意見文の書き方を理解する。	・五感を働かせて季節感のある自然、人の様子、できごとについて取材する。(30分)
15) 意見文の書き方を理解する。 ・学修のまとめとして、新聞社の投稿欄を想定した、保育者を目指す者としての意見文を書く。 ・「俳句鑑賞会」を行う。	・新聞社の投稿欄を想定して、保育者を目指す者としての考えをまとめる。(1時間)
[使用テキスト] 野田春美他、『グループワークで日本語表現力アップ』,2016,ひつじ書房	
[参考文献] 田上貞一郎、『保育者になるための国語表現』,2010,萌文書林 沖森卓也・半沢幹一編、『日本語表現法』,2007,三省堂 金子泰子、『国語教師が教える二百字作文練習』,2018,溪水社	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認(50%)	授業内容をまとめ、それに対する自らの考えや疑問、課題などを記述する。(各回提出)
②実技・作品発表等(20%)	・テーマと条件に沿った200字作文を書いたり、五感を働かせて自然を観察したり、季語を調べたりして俳句を作る。(10%) ・「保育者を目指す」というテーマに沿って、題名を決め、構成を工夫してわかりやすく意見を述べる。(10%)
【定期試験】	
①筆記試験()%	
②レポート(30%)	示された課題について、客観的な文章の書き方に沿って2,000字程度のレポートを作成する。
③実技試験()%	
④面接試験()%	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ・提出された「学修のまとめ」への評価言と評価点を毎回返却する。 ・200字作文や俳句について評価を毎回返却するとともに、授業内で解説したり、コメントしたりする。 ・紙芝居の発表に対して授業内でコメントする。 ・レポート試験について、評価基準に基づいた個別評価票を提出レポートとともに返却する。	
[備考] 各回の「学修のまとめ」はGoogle CLASSROOM で提出する。シートには、事前学修実施の有無も記入する。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-05

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 情報教育入門 (機器操作を含む)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 野田 哲夫	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] コンピュータの基本知識とインターネットの利用、ワープロソフト (Microsoft Word)、表計算ソフト (Microsoft Excel)、プレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint) の基本操作について学び、他の講義などにも必要なレポート・論文・プレゼンテーション資料の作成方法を習得します。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] コンピュータを使ってワープロソフト (Microsoft Word)、表計算ソフト (Microsoft Excel)、プレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint) の基本操作と応用方法について学びます。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] コンピュータの基本知識とインターネットの利用を中心とした情報リテラシーについて学んだ上で、 <ul style="list-style-type: none"> ・ ワープロソフト (Microsoft Word) を使った文書作成と編集、レポート作成 ・ 表計算ソフト (Microsoft Excel) を使った計算、グラフ作成、データベース作成・操作 ・ プレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint) を使った発表方法 以上を総合的に活用してレポートや論文、プレゼン資料が作成できることを目標とします。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ガイダンス・コンピュータの基礎知識 コンピュータの操作方法、およびWindows の操作・ファイルシステム等を理解します。			コンピュータの起動 Windows の操作を行っておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
2) インターネットの基本操作、情報リテラシー インターネットの操作を通して、インターネットの仕組みと、ネット社会における情報リテラシーを学習します。			インターネット接続の準備をしておきましょう。 情報リテラシーの事前学習をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
3) ワープロソフトの応用、文書作成 Microsoft Word を使って簡単な文書作成を行います。			ワープロソフト (Microsoft Word) の起動確認、ローマ字入力の確認、入力練習をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
4) ワープロソフトの応用、文書編集 Microsoft Word を使って簡単な文書作成と編集を行います。			指定した文書の作成をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
5) 表計算ソフトの基本操作、式と関数 Microsoft Excel の基本操作を理解し、式の計算、および簡単な関数による算出を行います。			表計算ソフト (Microsoft Excel) の起動確認、計算練習、関数練習をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
6) 表計算ソフトの基本操作、グラフの作成 Microsoft Excel でデータを元にしたグラフ作成を行います。			グラフの元データ入力、準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
7) 表計算ソフトの応用、データベース Microsoft Excel を活用してデータベースの操作を行います。			データベースの元データ入力、準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
8) プレゼンテーションソフトの基本操作 Microsoft PowerPoint の基本操作を理解し、Word、Excel で作成したデータを活用して編集、発表資料の作成を行います。			プレゼンテーションソフト (Microsoft PowerPoint) 起動確認しておきましょう。 Word、Excel で作成したデータの準備をしておきましょう。 【準備学修に必要な時間数】 1 時間		
[使用テキスト] 『情報リテラシー教科書 Windows 11/Office 2021 対応版』 ISBN-13 : 978-4274229657					
[参考文献]					

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（ 50%）	授業毎に課した課題の提出すること（Google Formを活用）。
②実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（ 50%）	インターネットリテラシー、Word, Excel, PowerPoint の基本操作の確認を問います。 Excel による計算、関数の理解と活用確認、グラフ作成とデータベース作成確認を問います。
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
授業毎に課題を課し、コメントを付けて返却する（Google Form を活用）。	
筆記試験については、答案を返却し間違えた箇所を指摘、正答を試験期間終了後に開示する。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-07

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 英語		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 宮澤 文雄	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 現在、日本の保育園、幼稚園にはさまざまな国の子どもたちが在園しています。そのため保育の現場では、異なる文化背景を理解しながら、お互いの気持ちや考えを伝えあうことが必要になる場面があります。この授業では、保育者に必要な英語とその学習方法を学ぶとともに、英語で書かれた様々な物語の読解を通じて異文化理解を深めてゆきます。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 授業では「英語の学習法」「異文化理解」「保育英語」を学びます。最初の「英語の学習法」では、多読・多聴を通じて英語の習得法を実践的に学びます。つぎの「異文化理解」では、英語で書かれた絵本や物語に親しみながら、そこに描かれる異文化について理解を深めます。さいごの「保育英語」では、国際化の進む幼児教育・保育の現場に必要な英語表現について、資格試験の受験を想定しながら学びます。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1) 多読・多聴という英語学習法を理解し、実践できる 2) 平易な英語の文章が読め、基本的な英文法を説明できる 3) 幼保英検の入門的な内容に対応し、問題を解くことができる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：外国語を学ぶことについて考える					
2) 多読・多聴という学習法を知る 1					
3) 多読・多聴という学習法を知る 2			前回までの授業内容を振り返っておく (20分)		
4) 英語で「絵本」を読む 1					
5) 英語で「絵本」を読む 2			前回までの授業内容を振り返っておく (20分)		
6) 英語で「絵本」を読む 3					
7) 英語で「絵本」を読む 4			前回までの授業内容を振り返っておく (20分)		
8) 英語で「民話」を読む 1					
9) 英語で「民話」を読む 2			前回までの授業内容を振り返っておく (20分)		
10) 英語で「民話」を読む 3			前回までの授業内容を振り返っておく (20分)		
11) 学びの振り返り、幼保英検について					
12) 幼保英検：リーディング・パートの解説 1					
13) 幼保英検：リーディング・パートの解説 2			前回までの授業内容を振り返っておく (20分)		
14) 幼保英検：リスニング・パートの解説			前回までの授業内容を振り返っておく (20分)		
15) 授業のまとめ					
[使用テキスト] プリントを配布します。					
[参考文献] 幼児教育・保育英語検定協会『幼保英検テキスト』（ブックフォレ）。英検のように1級～5級まであります。まずは初級レベルの4級、3級を参考にするとよいでしょう。その他については授業で適宜紹介します。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (50%)	授業時の小レポートなどの提出物によって成績評価を行います。				
②実技・作品発表等 () %					
【定期試験】					
①筆記試験 (50%)	筆記による試験で成績評価を行います。				

②レポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 提出された課題については次回以降の授業で講評します。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-09

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 体育 (講義)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 須崎 康臣	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 社会人としての知識・教養を獲得するため、スポーツの科学的知見について理解し、それに基づき実践できるようになる。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] スポーツ科学における各領域について、科学的知見に基づき講義形式で実施する					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] スポーツの実施や指導を行うために必要な基礎的な知識について理解し、説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					[準備学修の内容]
1) オリエンテーション, スポーツと心理学Ⅰ 心理学の側面から、運動が心や体に及ぼす効果についての講義					
2) スポーツと心理学Ⅱ 運動が上手になるといったメカニズムを理解するために運動技能の構造と運動学習について講義					
3) スポーツと心理学Ⅲ 運動を継続するという観点から、そのメカニズムと、継続を促すための方法について講義					
4) スポーツと心理学Ⅳ 運動に対する動機づけの理論の紹介と動機づけを促すための指導方法について講義					
5) 遊びとしての運動とその指導 遊びとしての運動の重要性と、遊びのための運動指導について講義					
6) スポーツを安全に行うために スポーツの実施や指導を行う際に、活動中に多いケガや病気とケガをしたさいの救急処置と、暑熱環境が身体に及ぼす影響について講義					
7) ウェイトコントロールにおける食事と運動の意義 適切なウェイトコントロールを行うために肥満、エネルギー消費、運動強度に関する講義					
8) 運動発達 発育発達における運動機能について紹介を行い、保育者と園環境が子どもの運動機能に及ぼす影響に関する講義					
[使用テキスト] 教員より適宜、資料を配布する					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (60%)	講義終了時に行う、振り返りのための小テストから評価します				
②実技・作品発表等 ()%					
【定期試験】					
①筆記試験 (40%)	筆記による試験を行います				
②レポート ()%					
③実技試験 ()%					
④面接試験 ()%					
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] 到達度の確認は、小テスト後に正当回答を説明する。筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-10

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 体育 (実技)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実技		授業担当者 須崎 康臣	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 文化・芸術・人間性、感性と表現力を身につけるため、運動技能が向上できるようにする。また、社会人としての知識・教養を獲得するため、スポーツの特性やルールについて理解し、それに基づき実践できるようにする。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 段階的な授業計画に基づいて、ソフトバレーボール、バスケットボール、バドミントンといった各スポーツの実技指導を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 各スポーツにおける特性とルールを理解できる。また、各スポーツの技能が向上し、ゲームを行うことができる。また、他者との協力を通して活動ができる態度を有している。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション・ソフトバレーボール (グループ分け・キャッチゲーム)			ソフトバレーボールのルールについて調べる。15 分間		
2) ソフトバレーボール (グループ分け・ボール操作・キャッチゲーム・ゲーム)			ソフトバレーボールに必要な個人技術について調べる。15 分間		
3) ソフトバレーボール (グループ分け・ボール操作・サーブ・ゲーム)			ソフトバレーボールに必要な個人技術について調べる。15 分間		
4) ソフトバレーボール (グループ分け・ボール操作・アタック・ゲーム)			ソフトバレーボールに必要なチーム技術について調べる。15 分間		
5) ソフトバレーボール (グループ分け・ボール操作・アタック・ゲーム)			ソフトバレーボールに必要なチーム技術について調べる。15 分間		
6) ソフトバレーボール (グループ分け・ボール操作・アタック・ゲーム)			ソフトバレーボールに必要なチーム技術について調べる。15 分間		
7) ソフトバレーボール (グループ分け・実技テスト・ゲーム)			ソフトバレーボールに必要なチーム技術について調べる。15 分間		
8) バスケットボール (グループ分け・ドリブル・パス・シュート練習・ゲーム)			バスケットボールのルールについて調べる。15 分間		
9) バスケットボール (グループ分け・ドリブル・パス・シュート練習・ゲーム)			バスケットボールに必要な個人技術について調べる。15 分間		
10) バドミントン (グループ分け・ラケット操作・サーブ練習・シングルスゲーム)			バドミンントンのルールについて調べる。15 分間		
11) バドミントン (グループ分け・ラケット操作・サーブ練習・シングルスゲーム)			バドミンントンのルールについて調べる。15 分間		
12) バドミントン (グループ分け・ラケット操作・サーブ練習・シングルスゲーム)			バドミンントンに必要な個人技術について調べる。15 分間		
13) バドミントン (グループ分け・ラケット操作・サーブ練習・シングルスゲーム)			バドミンントンに必要な個人技術について調べる。15 分間		
14) バドミントン (グループ分け・ラケット操作・フットワーク・ダブルスゲーム)			バドミンントンに必要なペア技術について調べる。15 分間		
15) バドミントン (グループ分け・実技テスト・ダブルスゲーム)			バドミンントンに必要なペア技術について調べる。15 分間		
[使用テキスト] 教員より適宜、資料を配布する					
[参考文献]					

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（８０％）	授業における振り返りの量と質から評価
②実技・作品発表等（２０％）	ソフトバレーボールとバドミントンの運動技能に関する実技テストで評価
【定期試験】	
①筆記試験（　％）	
②レポート（　％）	
③実技試験（　％）	
④面接試験（　％）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
実技テスト時に結果を伝える．振り返りは用紙を返却する．	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-11

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 心理学概論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	2単位	配当	1セメスター 選択
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 心理学の諸領域に関わる基本的な理論や考え方を学ぶことを目的とする。日常生活における様々な実践に必要な観察力や判断力の基礎となる知識を身に付ける。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 基本的に講義形式で授業をおこなうが、体験的な学習を含めることで知識の定着を図る。小テストをおこない、知識の定着を確認しながら進める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 心理学の基礎知識を用いて、日常生活の様々な現象を推論することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション					
2) 感覚と知覚					
3) 記憶					
4) 学習理論と認知理論					
5) 条件付けと行動の随伴性					
6) 小テスト (第2回～第5回) と解説			第2回～第5回の内容を振り返る (2時間)。		
7) 社会行動					
8) 思考と言語					
9) 感情					
10) 意欲と動機づけ					
11) 小テスト (第7回～第10回) と解説			第7回～第10回の内容を振り返る (2時間)。		
12) 人間の欲求					
13) 自己					
14) 適応と不安					
15) 小テスト (第11回～第14回) と解説			第11回～第14回の内容を振り返る (2時間)。		
[使用テキスト]					
[参考文献] 東洋ら (編), 『心理用語の基礎知識』, 2003, 有斐閣ブックス.					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (100%)		計3回の小テストによって評価する。			
②実技・作品発表等 () %					
【定期試験】					
①筆記試験 () %					
②レポート () %					
③実技試験 () %					
④面接試験 () %					
平常点評価		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 小テストの解説を第6回、第11回、第15回におこなう。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-02

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) コミュニケーション演習		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	1セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 福祉・教育の分野で求められる基礎的なコミュニケーションを理解し、説明できるようになる。また、集団の中で必要となるコミュニケーションスキルを身に付け、実践できる力を身に付ける。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 自己理解を基礎とし、他者や集団が自分に与える影響を心理的な観点から講義・演習をおこなう。小グループによるグループワークから講義の内容を、演習を通して体験的に学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 多面的な自己理解により、自分の感情や考えを率直に表現できる。 2. 日常生活や実習等で、実際のコミュニケーションに活用できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) コミュニケーションとは何か。			自己紹介の内容を考えておく (0.5時間)。		
2) 自分を知ることとコミュニケーション					
3) 他者から見た“自分”と自分から見た“自分”					
4) 非言語コミュニケーションの活用			自分のコミュニケーションの取り方を意識的に振り返る (1時間)。		
5) 集団での学び合いと対話					
6) 集団が個人に与える影響					
7) 集団維持とコミュニケーション					
8) 授業の振り返りとまとめ					
[使用テキスト]					
[参考文献] 後藤宗理, 『保育現場のコミュニケーション -発達心理学的アプローチ-』, 2008, あいり出版。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (100%)		第8回で作成する課題レポートで評価します。			
②実技・作品発表等 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] レポート課題にコメントつけて返却します。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-L-40-08

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育原理		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 深見 俊崇	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] ディプロマポリシーに掲げられる「専門的知識に基づき、子どもの最善の利益を尊重することができる」「社会のあり方について考える・実践する」を踏まえ、保育の基本原則や保育の意義を理解し、説明できるようになることをねらいとする。そのために、子どもの発達、保育の歴史の変遷や現代的課題、保育者の役割や保育所保育の全体像について学ぶ。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 保育の目的・目標、保育者の役割や子どもの発達を確認した上で、保育の方法や環境構成、指導計画の重要性について事例を挙げながら理解を深めていく。そして、保育における歴史の変遷を整理したり保育における現代的課題を検討したりすることで、望ましい保育とは何かについて受講者に考えてもらいたい。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 1. 保育の意義とその必要性を説明できる。 2. 保育所・幼稚園・認定こども園の役割、そこで勤務する保育者の役割を説明できる。 3. 保育における歴史の変遷と現代的課題について説明できる。 4. 講義内容を踏まえて、目指すべき保育実践のイメージを形成し、それを言語化できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保育を捉える視点と意義【グループワーク】			予習 (テキスト第1章) (1時間程度)		
2) 子どもの発達の理解			予習 (テキスト第2章) (1時間程度)		
3) 保育の方法【ディスカッション】			予習 (テキスト第6章) (1時間程度)		
4) 保育の環境			予習 (テキスト第7章) (1時間程度)		
5) 保育における計画の必要性 (教育課程・保育課程と指導計画) 【グループワーク】			予習 (テキスト第8章) (1時間程度)		
6) 保育士の専門性			予習 (テキスト第9章) (1時間程度)		
7) 保育者の専門性 (専門性向上のための研修、職員間の連携) 【ディスカッション】			予習 (テキスト122-125, 141-145, 159-162) (1時間程度)		
8) 保育者の専門性 (園内外との連携) 【ディスカッション】			予習 (専門機関との連携に関する資料) (1時間程度)		
9) 保育における歴史の変遷 (欧米)			予習 (テキスト32-41) (1時間程度)		
10) 保育における歴史の変遷 (戦前)			予習 (テキスト41-43, 48-50, 63-67) (1時間程度)		
11) 保育における歴史の変遷 (戦後)			予習 (テキスト50-59, 67-77) (1時間程度)		
12) 幼保一体化と新システム【ディスカッション】			予習 (テキスト44-46, 77-78, 151-153) (1時間程度)		
13) 保育における現代的課題 (地域の子育て支援) 【ディスカッション】			予習 (小規模保育に関する資料) (1時間程度)		
14) 保育における現代的課題 (働き方と保育のあり方) 【ディスカッション】			予習 (テキスト第10章) (1時間程度)		
15) これから求められる保育を考える			これまでの授業の復習 (1時間程度)		
[使用テキスト] 民秋言・河野梨津子編著『保育原理【新版】』北大路書房 文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館 厚生労働省『保育所保育指針解説書』フレーベル館					
[参考文献] 『保育小事典』大月書店					

[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（40%）	授業中のワーク，振り返り，オンライン小テスト
②実技・作品発表等（%）	
【定期試験】	
①筆記試験（60%）	筆記による試験
②レポート（%）	
③実技試験（%）	
④面接試験（%）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
毎回のコメントをまとめたプリントを配布し、解説を行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-12

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 教育原理		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 塩津 英樹	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子供の最善の利益を尊重し、教育・保育・子供に関する専門的な知識を身につけ、実践できる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] ①教育の意義と本質、②教育と子供の福祉、③教育を成立させる諸要因、④教育の思想と歴史、⑤現代社会における教育課題などについて講義する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 教育の意義と本質について自らの考えを深め、歴史的な視点から教育および学校の営みを捉えることで、教育の歴史、教育家の思想、近代教育制度の成立と展開、現代社会における教育課題など、教育に関する専門的な知識を説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション -教育学の基礎概念-			教科書 (8-21 頁) を読み予習を行う。 (30分間)		
2) 教育の意義と本質 (1) -教育の定義と目的-			教科書 (22-28 頁) を読み予習を行う。 (30分間)		
3) 教育の意義と本質 (2) -乳幼児期における教育の目的-			教科書 (29-35 頁) を読み予習を行う。 (30分間)		
4) 教育と子供の福祉 -子供の権利を中心に-			教科書 (38-45 頁) を読み予習を行う。 (30分間)		
5) 教育を成立させる諸要因 (1) -子供・家庭- (グループワークを含む)					
6) 教育を成立させる諸要因 (2) -教員・学校- (グループワークを含む)					
7) 近代教育制度の成立と展開 -公教育を中心に-			教科書 (88-108 頁) を読み予習を行う。 (30分間)		
8) 教育の歴史 (1) -古代から中世までの歴史を中心に-			教科書 (56-85 頁) を読み予習を行う。 (30分間)		
9) 教育の歴史 (2) -近代から現代までの歴史を中心に-			講義で扱ったテーマについてワークシートに記入する。(30分間)		
10) 教育家の思想 (1) -ロック、ルソーの思想を中心に-			講義で扱ったテーマについてワークシートに記入する。(30分間)		
11) 教育家の思想 (2) -ペスタロッチー・フレーベルの思想を中心に-			講義で扱ったテーマについてワークシートに記入する。(30分間)		
12) 現代社会における教育課題 (1) -不登校・いじめ問題を中心に-			講義で扱ったテーマについてワークシートに記入する。(30分間)		
13) 現代社会における教育課題 (2) -グローバル化と異文化理解-			教科書 (178-184 頁) を読み予習を行う。 (30分間)		
14) 現代社会における教育課題 (3) -社会参画と教育-					
15) 現代社会における教育課題 (4) -自己実現と職業生活-					
[使用テキスト] 『最新 保育士養成講座』総括編纂委員会編『第2巻 教育原理』全国社会福祉協議会、2019年。					
[参考文献] 講義の中で、適宜紹介する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準] 【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					

②実技・作品発表等 (%)	
【定期試験】	
①筆記試験 (100%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
提出された課題について、次回の講義冒頭時に解説し、フィードバックを行う。	
[備考] 双方向による授業を行うとともに、グループワークを取り入れた対話的な学びを実現する。 受講にあたっては、遅刻や私語等は厳に謹んでください。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-13

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 発達心理学		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 藤 翔平	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 発達心理学の理論や知見を学び、子どもの心身の発達に応じた保育・教育について理解できるようになる。 また、発達障害について学ぶことを通して、特別なニーズのある子どもの保育・教育についても考察できるようになる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 乳幼児期を中心に、子どもが発達する過程について様々な理論や知見を紹介しながら説明する。 また、発達障害についても、乳幼児期で注意すべき点を踏まえながら、求められる保育について解説する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 乳幼児期の子どもが発達に関して、多様な理論や知見を基に解釈し、説明することができる。 2. 発達障害など特別なニーズのある子どもに関する知識を身に付け、具体的な支援を考察できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 発達心理学とは					
2) 遺伝と環境			授業後、コメントシートを作成する。(4時間程度)		
3) 発達心理学の理論			同上		
4) 乳児期の社会性の発達			同上		
5) 乳児期の認知発達			同上		
6) 幼児期の社会性の発達			同上		
7) 幼児期の認知発達			同上		
8) 遊び			同上		
9) 児童期への接続			同上		
10) 発達障害への理解			同上		
11) 発達障害への対応			同上		
12) 虐待・マルトリートメント			同上		
13) 現代の保育が抱える問題			同上		
14) まとめ			試験勉強を行う。(4時間程度)		
15) 授業内試験					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 必要に応じて資料を配布します					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (100%)	各授業の後に提出するコメントシート (40%) と 15回目の授業で行う論述試験(60%)の結果を基に評価する。				
②実技・作品発表等 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法]					

コメントの内容について、次回授業時に紹介する形で行う。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-22

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (総論)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 舟越 美幸	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元保育士の経験から、保育内容について実践的にお伝えします。				
[授業の目的・ねらい] 保育所・幼稚園・認定こども園における保育内容を総合的に理解し、5領域の内容を関連づけて保育の計画から実践を展開することのできる基礎を身に付ける。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] ・保育内容の構造について学ぶとともに、現場で保育にあたるゲストスピーカーによる講話を通して様々な保育の形態や子ども理解のための保育者の姿勢を知る。 ・5領域から保育のねらいや内容に関わる視点を持ち、保育環境について模擬保育に向けたグループワークを通して検討を重ねる。 ・実際に保育の計画と実践を行い、それらを総合的に振り返ることで保育内容総論の学びを得る。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・保育内容の構造について5領域の視点から総合的に学ぶとともに、ゲストスピーカーの講話を通して多様な保育や保育者の姿勢についての理解を深める。 ・グループワークを通して互いに意見を出し合うことで、保育方法について多角的な視点を持つ。 ・指導案作成と模擬保育から、保育内容について総合的な視点を持って保育を捉えることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ・ガイダンス ・保育所保育指針解説 「保育の方法及び5領域」 ・子どもの育ちを支える保育環境と子ども観・遊び観・保育観 ・環境構成のポイント「子どもの発達・興味や関心・自発性」			保育所保育指針解説の指定された箇所について内容をまとめたり、コーナー保育の教材を考えたりし、期限までに提出すること。(1h)		
2) 保育の連続性と保育活動の展開 *ゲストスピーカー ・子どもを主体とし、環境を通して育てるプロジェクト保育のあり方について理解する。			ゲストスピーカーの講話を聴き、期限までにレポートを提出すること。(1h)		
3) コーナー保育の指導案作成 (グループワーク) ・「予想される子どもの活動」と「学生の援助」を考え、コーナー保育の指導案を立案する。			指導案が授業内に完成しなかった場合は、グループ全体で期限までに作成し、提出すること。(1~2h)		
4) 指導案修正及び教材研究・模擬保育の事前準備 (グループワーク) ・立案した指導案を基に、役割を分担し模擬保育の準備を行う。			教材の準備が授業内にできなかった場合は、グループ全体で期限までに準備すること。(1~2h)		
5) 教材研究・模擬保育に向けた事前準備 (グループワーク) ・立案した指導案を基に、模擬保育の環境を構成する。					
6) 指導案に基づく模擬保育 (グループワーク) ・外部施設の4・5歳児を招き、実践的に学ぶ。			前日夕方に履修者全体で環境を設定し、最終チェックを行います。(1.5h)		
7) 作成した指導案に基づく模擬保育の記録 (グループワーク) ・実践した内容を基に、保育マップ型記録を作成する。					
8) 模擬保育の実践及び記録と環境の再構成 (ディスカッション) ・模擬保育についてグループごとに振り返り、環境の再構成について話し合い、グループ別に発表する。					
[使用テキスト] ・厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーバル館 ・高山静子『学びを支える保育環境づくり～幼稚園・保育園・認定こども園の環境構成～』小学館					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (85%)	第1回保育所保育指針のまとめ・教材の考案(15%)、第2回ゲストスピーカーの講話からの気づきレポート(10%)、第3回指導案の提出および内容と修正(20%)、第4・5回振り返り(各5%)第6回模擬保育の振り返り(15%)、第7回模擬保育の記録(15%)				

	を総合的に評価します。
③実技・作品発表等（15%）	第8回環境の再構成
【定期試験】	
①筆記試験（%）	
②レポート（%）	
③実技試験（%）	
④面接試験（%）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
<ul style="list-style-type: none"> ・コーナー保育の指導案作成は教員の添削によりグループ別に指導を行う。 ・模擬保育は第7, 8回においてコメントをする。 	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-10-38

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 表現技術 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦・増原 真緒・長島 佳奈 (オムニバス)	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	1 Semester 卒業必修
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元保育士の観点から、幼児の表現活動における保育の実際や実践について伝えます。(増原)				
[授業の目的・ねらい] 手袋人形の製作と製作した手袋人形を用いた発表を通して、保育における表現技術を習得する。学習の成果は実習の機会に活用することを期待する。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育活動をする想定で2種類の手袋人形を製作する。アイテムを用いた練習を経て、発表する。発表後には振り返りをする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①2種類の手袋人形と発表に必要な小物を製作することができる。 ②保育活動を想定して、手袋人形を用いた発表をすることができる。 ③製作活動と発表を振り返り、自己課題を明らかにし、課題解決を図ることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション: 授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 製作①: 手袋人形「ことりん」を製作する。【主: 増原、副: 加藤】			授業時間内にできない場合は課外で作成する。(1時間)		
2) 製作②: 手袋人形「ことりん」を用いた表現の練習を行う。【主: 増原、副: 加藤】			授業時間内にできない場合は課外で作成する。(1時間)		
3) 発表① (グループ): グループに分かれ発表をする。【加藤、増原、長島】			発表の練習をする。(1時間)		
4) 製作③: 手袋人形「指ぶた」または「花と葉っぱ」を製作する。【加藤】			予定通りに進まなかった場合は、課外で製作を進める。(1時間)		
5) 製作④: 手袋人形「指ぶた」または「花と葉っぱ」を完成させる。【加藤】			授業時間内に完成しなかった場合は課外で製作し、次回の発表までに完成させる。(1時間)		
6) 発表の準備 (グループ): 各自発表の練習をする。発表に必要な小物があれば加えて製作する。【主: 増原、副: 加藤】			小物の製作が間に合わなければ、課外で製作し、次回の発表までに完成させる。(1時間)		
7) 発表② (グループ): グループに分かれて発表をする。【加藤、増原、長島】			事前に発表の練習をする。練習後、フィードバックを踏まえて、本番の練習をする。(1時間)		
8) 振り返り: 活動を振り返り、ワークシートを記述する。【増原】					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (75%)		作品 (50%) 振り返りのワークシート (25%)			
②実技・作品発表等 (25%)		発表 (第3回 10%、第7回 15%)			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			

	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	発表後に各教員からコメントする。
[備考]	材料費あり

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-40-56

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 表現技術Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤友彦・長島佳奈・増原真緒	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	2単位	配当	2セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもの豊かな心を育むために、造形表現、音楽表現、身体表現、言語表現を総合した表現を構想し、構想にもとづいて製作および制作し、発表したり鑑賞したりすることを通して表現技術を習得することを目的とする。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 第1回から7回まではペープサートの製作・発表・鑑賞を行い、第8回から15回までは壁面構成の制作・展示・鑑賞を行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
① ペープサート、壁面構成それぞれの表現の特性に応じた主題を考え、主題に応じた内容を構想することができる。 ②-1 表現材料の特性に応じて絵人形を製作することができる。(ペープサート) ②-2 絵人形の動かし方や音楽・歌の表現の練習を通して、表現の向上を図ることができる。(ペープサート) ②-3 造形表現材料や造形表現技法の特性を活かして制作し、空間に応じて展示できる。(壁面構成) ③ 他者に伝わるように発表することができる。(ペープサート) ④ 発表の振り返りや鑑賞を通して、自分自身の表現技術を確認し他者の発想や表現のよさを感じ取ることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 ペープサート①〈グループ活動〉／構想①：グループを編成し、「子どもの歌」の主題を決定する。歌に即したペープサートの展開内容やセリフを考え、ワークシートにまとめる。【長島】					
2) ペープサート②〈グループ活動〉／製作①：主題に応じた絵人形を決定し、製作する。【加藤】			第1回のワークシートが完成しなかった場合は指定期日までに提出すること(1時間～2時間)		
3) ペープサート③〈グループ活動〉／製作②：主題に応じた絵人形を製作する。【加藤】			授業時間内に絵人形の完成の見通しが立たない場合は、課外で製作する。(1時間～2時間)		
4) ペープサート④〈グループ活動〉 製作③：主題に応じた絵人形を完成させる。【加藤】 構想②：絵人形の具体的な動かし方を考え、ワークシートに追記する。【長島】			授業時間内に絵人形が完成しなかった場合は、課外で作成・製作し、完成させる。(1時間～2時間)		
5) ペープサート⑤〈グループ活動〉／発表の準備：発表に向けて、練習をして、絵人形の動き、音楽や声の表現を合わせ、よりよい表現を目指す。改善点があれば適宜、修正を施す。【増原、長島】			授業時間内での準備が不十分の場合は、課外で練習し、発表に備える。(1時間～2時間)		
6) ペープサート⑥〈グループ活動〉／発表：グループで発表をする。発表者以外は鑑賞をする。【加藤、長島、増原】 ※発表のフィードバック／授業担当全教員					
7) ペープサート⑦〈グループ活動〉／振り返りとまとめ：発表の動画を鑑賞し、気づいたことや感じたことなどをワークシートにまとめる。【長島】					
8) 壁面構成①〈グループ活動〉／構想①：グループを編成し、主題と展示空間を考える。【加藤】			事前にグループを編成し、役割分担を決めておく。(1時間) 授業時間内に主題が決定しなかった場合は、次回までに話し合ってから決定しておく。(1時間～2時間)		
9) 壁面構成②〈グループ活動〉／構想②：主題を決定し、主題にもとづ			授業時間内に構想がまとまらなかった場合		

き、表現の構想を練る。表現の構想にもとづき、制作に必要な用具や材の準備をする。【加藤】	は、次回までに話し合っ決定しておく。(1時間～2時間)
10) 壁面構成③〈グループ活動〉／構想③：表現の構想にもとづき、試作をする。【加藤】	
11) 壁面構成④〈グループ活動〉／制作①：表現の構想にもとづき制作する。描画材や接着に乾燥が必要な制作はこの時間に行う。【加藤】	授業時間内に予定通りに進まなかった場合は課外で制作する。(1時間～2時間)
12) 壁面構成⑤〈グループ活動〉／制作②：表現の構想にもとづき制作を継続する。【加藤】	
13) 壁面構成⑥〈グループ活動〉／制作③：表現の構想にもとづき制作を継続し、この時間ですべての展示物を完成させる。【加藤】	授業時間内に展示物が完成しなかった場合は課外で制作し、次回まで完成させる。(1時間～2時間)
14) 壁面構成⑦〈グループ活動〉／展示：表現の構想にもとづき、学内空間に展示する。【加藤】	授業時間内に展示できなかつた場合は課外で展示する。(1時間～2時間)
15) 壁面構成⑧〈グループ活動〉／鑑賞と振り返り：展示された壁面構成を鑑賞する。鑑賞したことを話し合い気づいたことや感じたことなどをワークシートにまとめる。【加藤】	
[使用テキスト]	
なし	
[参考文献]	
なし	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認(90%)	ペープサートのワークシート(20% 第1回、4回、7回) 壁面構成のワークシート(10% 第15回) 絵人形(10%) 壁面構成(50%)
②実技・作品発表等(10%)	ペープサートの発表(10%)
【定期試験】	
①筆記試験(%)	
②レポート(%)	
③実技試験(%)	
④面接試験(%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
ペープサートはリハーサルと発表後、壁面構成は鑑賞の際にそれぞれコメントする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-40-57

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 音楽 I a (理論・声楽)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 長島 佳奈	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 楽譜を読むことができるようになるために、楽譜の理解に必要な基礎的な音楽理論を習得することを目的とする。また、子どもの遊びとその心を豊かに発展させるために、子どもたちにとって身近な「歌」に着目し、歌唱をとおした音楽表現力を養うことも目的とする。具体的には、子どもの歌から広げることのできるリズム遊び、楽器遊び、身体遊びなど「音楽遊び」に発展することのできる力を養う。さらに、手遊び歌についても学修する。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 読譜に必要な基礎的な音楽理論について講義する。また、子どもの歌の世界観が広がる教材の取り入れ方や、各々の子どもの歌に合う声色や表情について、教員が実践しながら説明する。さらに、子どもの歌をもとにしたリズム遊びや楽器遊びの展開法について講義と学生自身の実践を交えながらすすめていく。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・読譜のための基礎的な音楽理論や用語などを説明することができるとともに、歌唱やリズム奏をとおしてその知識と実践を結び付けることができる。 ・それぞれの子どもの歌の歌詞の内容を把握し、それに相応しい声色と表情をつけることができる。 ・子どもの歌から「音楽遊び」に発展する方法を理解することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 音楽理論①：五線、音部記号、音名、臨時記号、音符の長さ/ 子どもの歌のもつ性格について					
2) 音楽理論②：休符の長さ、付点音符、連符、小節、演奏順序/声楽①			学習した箇所および配布プリント等の内容について再確認すること。(30分～1時間)		
3) 音楽理論③：到達度確認小テスト①、拍と拍子、拍子記号、リズム/ 声楽②			〃		
4) 音楽理論④：音程、全音と半音、強弱記号、アーティキュレーション/ 声楽③			〃		
5) 到達度確認小テスト② /声楽④			〃		
6) 音楽理論⑤：音階と調、発想標語、装飾音/ 歌唱教材を用いたリズムづくり①			〃		
7) 音楽理論⑥：奏法/歌唱教材を用いたリズムづくり②			第8回目の発表会に向けてグループで練習しておくこと(30分～1時間)		
8) 発表会(グループ発表)			〃		
[使用テキスト] 『子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ』萌文書林 『こどものうた100』チャイルド社					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認(50%)		到達度確認小テスト①(20%)、到達度確認小テスト②(30%)			
②実技・作品発表等(50%)		グループ発表(40%)、発表の課題提出(10%)			
【定期試験】					
①筆記試験(%)					
②レポート(%)					
③実技試験(%)					
④面接試験(%)					

平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 確認テストについて、解説を行う。また、グループ発表後にフィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-40-77

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 音楽Ⅱa (器楽)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 長島 佳奈	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	1セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもの豊かな感性と表現力を引き出すために、幼稚園教員や保育者として身につけておくべき基礎的なピアノ技術を習得することを目的とする。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 習熟度に応じた個別レッスンを展開する。『バイエル』にてピアノの基礎技術の習得を図りながら、歌唱共通教材や『こどものうた』等で扱われるような曲の弾き歌いのレッスンを行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ピアノの基礎技術を習得し、ピアノ曲や弾き歌いを演奏することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション/ピアノレッスングループ分け					
2) バイエル 3～11/4～6月の歌の伴奏			事前に指定される課題について、授業時間外で十分に練習を行ったうえで授業に臨むこと。また、練習状況を記録し、自分の状況を自覚しながら学習を進めること。(1～3時間)		
3) バイエル 12～18/4～6月の歌の弾き歌い			〃		
4) バイエル 19～25/7～9月の歌の伴奏			〃		
5) バイエル 26～28/7～9月の歌の弾き歌い			〃		
6) バイエル 29～31/10～12月の歌の伴奏			〃		
7) バイエル 32～34/10～12月の歌の弾き歌い			〃		
8) 中間発表会 (ピアノ曲と弾き歌い) 担当教員による講評および受講生同士の振り返り					
9) バイエル 35～37/1～3月の歌の伴奏			〃		
10) バイエル 38～40/1～3月の歌の弾き歌い			〃		
11) バイエル 41～44/通年の歌の伴奏			〃		
12) バイエル 45～46/通年の歌の弾き歌い			〃		
13) バイエル 47～50/生活の歌の伴奏と弾き歌い			〃		
14) 発表会に向けての仕上げ			〃		
15) 発表会			〃		
[使用テキスト] 『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版 『こどものうた100』チャイルド社 『こどものうた200』チャイルド社 適宜、個人の習熟度に合わせて様々なテキストを薦める。					
[参考文献] 『ブルグミュラー25の練習曲集』全音楽譜出版社					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 () (%)					
②実技・作品発表等 (100%)		中間発表会(40%)、発表会(60%)で評価します。			
【定期試験】					
①筆記試験 () (%)					
②レポート () (%)					
③実技試験 () (%)					
④面接試験 () (%)					

平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 毎回の授業時に、担当教員より課題に対するフィードバックを行う。発表会では講評および振り返りを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-40-78

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 教育課程論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 小山 優子	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 保育の実践上、必ず理解しておかなければならない、保育の全体計画である教育課程の編成意義とその内容を知り、それに基づいて指導計画におおしていく視点を身につける。指導計画については、年間計画・期間計画・月案などの長期的な指導計画や、週案・日案などの短期的な指導計画などの種類を理解した上で、保育実習・教育実習において学生自身が立案する部分指導案や日案の書き方を知り、自分なりに書いてみるができることが授業のねらいである。また、計画、実践、評価の過程を通して、カリキュラム・マネジメントの方法を理解することを目的とする。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育所・幼稚園・認定こども園における教育課程や全体的な計画、指導計画について理解し、計画と評価について学ぶ。保育のカリキュラムの基本となる教育課程と指導計画の関係性を理解した上で指導計画の立案の意義や書き方について学ぶ。特に、指導計画については、短期的な部分指導案や日案、週案、月案についての書き方やその意義を具体的に理解し、指導計画作成の技能も身につける。また、指導計画の立案と記録の取り方、子どもの評価や保育者自身の自己評価の方法について学び、保育実践の質向上のプロセスを学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] (1) 教育課程の意義及び編成方法に関する理解を深め、幼稚園教育要領・保育所保育指針の位置づけや変遷、特徴を説明できる。 (2) 幼稚園・保育所における教育課程・全体的な計画の具体的展開を知り、授業開発や保育の展開を想定した指導計画の作成の視点を身につける。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 教育課程・全体的な計画とは、教育課程編成の意義					
2) 教育目的・教育目標・教育方法と教育課程編成					
3) 幼稚園・保育所・認定こども園における教育課程・全体的な計画の編成方法					
4) 指導計画の作成の意義、指導計画の作成方法					
5) 幼稚園・保育所における長期的な指導計画 (月案・期間計画・年間計画)					
6) 幼稚園・保育所における短期的な指導計画 (部分指導案・日案・週案)					
7) 実習日誌・保育日誌・実践記録の書き方、保育記録の運用					
8) 教育課程・指導計画の評価とカリキュラム・マネジメント			(事後学習)1~8 回の授業中に視聴した DVD について、ワークシートの「まとめ」に自分の感想や意見を記述する (約 30 分)。		
[使用テキスト] 北野幸子・小山(小野)優子『乳幼児カリキュラム論』建帛社 2010 年 『幼稚園教育要領解説』、『保育所保育指針解説』					
[参考文献] 参考文献などは授業の中で適宜提示するとともに、必要に応じてプリントなどを配布する。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					
②実技・作品発表等 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (70 %)		筆記による試験を行う。			
②レポート (30 %)		授業終了後に期日をもうけ、指定された場所へレポートを提出する。			
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			

[フィードバックの方法] 筆記試験について、正答を試験期間終了後に開示する。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-31

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 教育実習指導 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 舟越 美幸	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		保育者として勤務した経験から、幼児教育に大切な視点を伝えます。			
[授業の目的・ねらい]					主に対応するD P
<ul style="list-style-type: none"> ・実習の目的や内容を理解し、実習に臨む心構えや表現技術を身につける。 ・実習日誌の記録から、子どもの姿の理解や保育の計画への繋がりについて説明できるようになる。 ・指導案の作成方法を知り立案に活かすことができるようになる。 					5
[授業全体の内容の概要]					
<ol style="list-style-type: none"> ① 実習の目的・概要を理解し、実習への課題や達成方法を明確にする。 ② 学んだ保育技術を参考に、グループで指導案を作成し、実践する。 ③ 立案した指導案から新たな課題を見つけ、改善する。 					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園実習の意義や目的、内容について説明できる。 ・幼稚園教育において育みたい子どもの姿を理解し、子どもの主体的な生活や学びが実現できるよう、指導場面を想定した保育方法を実践できる。 ・実践した指導案を基に、改善する方法について説明できる。 					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 幼稚園実習ガイダンス			<ul style="list-style-type: none"> ・これまでの実習や講義・演習等を振り返り、子どもの興味や関心・発達過程と関連付けた保育実践について調べ準備しておくこと(2-3時間)。 ・保育者としてはもちろん、社会人として必要な態度を身につけていくことを求めます。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・幼稚園実習の意義と目的、実習の時期と内容を理解する。 ・幼稚園教育要領解説を基に、幼稚園や幼稚園教諭の社会的役割を理解する。 					
2) 環境を通して行う教育と幼児の自発的な遊び					
<ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌から環境と生活・遊びのつながりや幼稚園教諭の役割を考える。 					
3) 子ども理解から始まる保育の方法					
<ul style="list-style-type: none"> ・実習日誌から、「子どもの姿」を捉える。 ・指導案作成について学び、立案のポイントを理解する。 					
4) マジックシアターとスリーヒントクイズ					
<ul style="list-style-type: none"> ・作成したマジックシアターに合わせ、スリーヒントクイズを作成する。 					
5) マジックシアターとスリーヒントクイズを用いた指導案 (グループワーク)			<ul style="list-style-type: none"> ・「マジックシアター」を期日内に作成して下さい。(1時間)。 		
<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを惹きつける表現方法や応答的な関わりについて学び、手立てを考える。 ・グループ内で役割分担について話し合い、実践場面を想定し練習する。 					
6) 指導案による実践① (フィールドワーク)			<ul style="list-style-type: none"> ・立案した指導案に沿って、グループで準備して下さい。(1時間) 		
<ul style="list-style-type: none"> ・外部施設で、作成した指導案を用い子ども集団と言葉のやり取りを実践する。 ・外部施設で子どもたちと実践的に関わり、気づいたことを話し合う。 					
7) 指導案による実践② (ディスカッション)			<ul style="list-style-type: none"> ・「個人票」と「実習課題と取り組み」を作成し、期日までに提出して下さい。(1~2時間) 		
<ul style="list-style-type: none"> ・実践した内容を基に、個々に省察しグループ内で話し合う。 					
8) 実習に向けて「個人票」と「実習課題と取り組み」を作成する。					
<ul style="list-style-type: none"> ・「個人票」と「実習課題と取り組み」の作成方法について学ぶ。 ・「実習課題と取り組み」を作成することで自分の課題を整理する。 					
[使用テキスト]					
<ul style="list-style-type: none"> ・実習ガイドブック 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 実習運営委員会 ・幼稚園教育要領解説 文部科学省 フレーベル館 					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (70%)	保育者の役割(10%)・幼稚園教育の役割と環境(10%)・実習日誌ワークシート(10%) 生活と遊びワークシート(10%)・フィールドワーク振り返り(10%)・個人票(10%)・ 実習の課題と取り組み(10%)				
②実技・作品発表等 (30%)	マジックシアター・スリーヒントクイズ(20%)・実習指導案(10%)				
【定期試験】					

①筆記試験（ %）	
②レポート（ %）	
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・提出された課題について授業内で解説したり、添削したりすることで、フィードバックを行う。	
[備考]	
・「幼稚園実習」を履修するためには、「教育実習指導Ⅰ」「教育実習指導Ⅱ」を履修する必要があります。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-PC-50-63

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子ども家庭福祉	授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義	授業担当者 藤原 映久・高橋 憲二 (オムニバス)	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1 セメスター	資格必修
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	過去に 15 年間児童相談所で勤務、現在は小児科でカウンセリングに従事 (藤原)		
[授業の目的・ねらい] 子どもと家庭の福祉を考える上で必要となる基本的知識を習得するとともに、子どもと家庭に関わる各種の課題への支援のあり方を理解し、子どもの立場に立った支援を考えることができるようになる。			主に対応するDP 3+4
[授業全体の内容の概要] 子どもの権利に代表される子ども家庭福祉の理念や歴史、関連する法体系・機関・施設などの基礎的知識に加え、いじめ、子どもの貧困、非行、障がい、親権、児童虐待など、我が国の子ども家庭福祉が直面しているトピックについて幅広く学ぶ。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1) 子どもと家庭の福祉を考える上で必要となる最も基礎的知識 (理念、歴史等) について理解している。 2) 子ども家庭福祉の実際の実施体制について、法律や専門機関等と関連づけて理解している。 3) 子どもと家庭に関する課題 (いじめ、子どもの貧困、非行、障がい、児童虐待等) に関する支援のあり方を理解した上で、子どもの立場に立った支援とは何かを考え、その内容を説明できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		[準備学修の内容]	
1) 現代の子どもと家庭をめぐる状況 (藤原) 少子化、児童虐待、非行、不登校など現在の子どもと家庭が抱える様々な課題を概観し、状況を理解する。		<ul style="list-style-type: none"> ●配布資料末尾の確認テストを行い、自らの学びを確認する。 ●配布資料末尾の「参考・引用文献」の中から、関心の高い資料を閲覧し、学びを深める。 ●配布資料内に QR コードがある場合、QR コードから資料を閲覧し、学びを深める。 ●毎回の授業の冒頭で配布する新聞記事などを読み、子ども家庭福祉のトピックや動向を確認する。 ※各回における準備学習に必要な時間数は 60 分程度である。	
2) 子ども家庭福祉の理念と概念 (藤原) 児童家庭福祉から子ども家庭福祉への考え方の変化など、子ども家庭福祉を支える基本的な考え方を学ぶ。			
3) 子ども家庭福祉の歴史の変遷 (藤原) 近代以降を中心として子ども家庭福祉の歴史を概観し、その変遷を理解する。			
4) 少子化と子育て支援 (藤原) 少子化の現状と少子化対策の役割を担う子育て支援の制度について学ぶ。			
5) 子どもの権利 (藤原) 人権とは何か、子どもの権利とは何かについて基本的な考え方を学ぶ。			
6) 親権について (藤原) 誤解されることも多い親権について、正しい理解を身につける。			
7) 児童虐待について (藤原) 児童虐待の対応システム及び実際の対応について学ぶ。			
8) 子どもの生活と生きづらさ (高橋) 島根県子どもの生活実態調査 子どもの貧困とウェルビーイング リアクションペーパーの書き方 リアクションペーパーの提出		予習：教科書 p166-172 準備学習時間 40 分	
9) 子どもの育成支援の施策とサービス (高橋) 子ども若者育成支援推進大綱としまね青少年プラン 事例紹介：青少年育成島根県民会議の活動 リアクションペーパーの提出			
10) ひとり親家庭への施策とサービス (高橋) 事例紹介 国の施策 島根県子どものセーフティネット推進計画 リアクションペーパーの提出		予習：教科書 p118-136 準備学習時間 40 分	
11) 社会的養護の施策とサービス (高橋) 日本における社会的養護の現状と諸施策 パーマネンシーと今後の社会的養護施設 社会的養護施設・里親の子どもたちへのアンケート リアクションペーパーの提出		予習：教科書 p150-153 準備学習時間 30 分	
12) いじめ問題と児童生徒へのハラスメントについて (高橋) 島根県はいじめ問題の現状			

児童生徒へのハラスメントの防止について（鳥取県教育委員会） リアクションペーパーの提出	
13) 障がい児の福祉（高橋） 障害者福祉理念 障がいとは 障がいと福祉 障がい児への支援方法 リアクションペーパーの提出	予習：教科書 p154-163 準備学習時間 40 分
14) 子ども家庭福祉を担う関係機関（高橋） 子ども家庭福祉を担う関係機関の業務・連携・ネットワーク 事例紹介：地域つながりセンターの活動 リアクションペーパーの提出	予習：教科書 p86-93 準備学習時間 40 分
15) 子ども家庭福祉の今後と課題 まとめ（高橋） 「はざま」の拡大と子どもの生活 ソーシャルワークと保育者 地域共生社会の実現 世代間交流 相互扶助ネットワーク	
[使用テキスト] ・直島正樹・河野清志（2019）『図解で学ぶ保育 子ども家庭福祉』、萌文書林 ・配布資料あり	
[参考文献] ・配布資料における各講義回部分の末尾に記載するとともに、資料内に QR コードを掲載する（藤原）。	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（ 40%）	授業の冒頭に前回授業に関する小テストを実施する（藤原）。 リアクションペーパー（高橋担当分）により授業の到達度を確認する。リアクションペーパー（高橋担当分）は授業終了時に提出する。（高橋）
②実技・作品発表等（ %）	
【定期試験】	
①筆記試験（ 30%）	配布資料末尾の確認テスト及び授業冒頭で行う小テストの内容を中心に、基礎的な知識を問う（藤原）。
②レポート（ 30%）	レポート課題は、筆記試験時に提示する。指定日までにレポートを提出する。（高橋）
③実技試験（ %）	
④面接試験（ %）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する（高橋） <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない（藤原）
[フィードバックの方法] ・小テスト及び筆記試験（藤原担当分）について、試験終了後に正答を開示する（藤原）。 ・レポート（高橋担当分）は添削し、添削評価表を返却する。（高橋）	
[備考] ・必ず、配布資料を持参すること。 ・小テストの実施は第2回～7回とし、初回は感想の提出を求める。なお、これらの提出をもって出席を確定させる（藤原）。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-34-18

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 社会福祉論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 余村 望	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	2単位	配当	1 Semester 資格必修
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元知的障害者援護施設職員の実験も踏まえて社会福祉の歴史及び現状を解説します。				
[授業の目的・ねらい] 社会福祉の概念と機能、社会福祉専門職の役割について、社会福祉の政策の変遷と社会福祉援助事例を通して基本的理解をすすめる。					主に対応するDP 3+4
[授業全体の内容の概要] 社会福祉にかかる①意義と歴史の変遷 ②制度と実施体系 ③相談援助 ④未来への課題 について学習し、実践者としての基礎的理解と態度を身につける。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・社会福祉が課題としてきた生活問題と社会福祉の必要性及びその意義について理解する。 ・社会福祉の原理について理解する。 ・社会福祉援助の進め方について理解する。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 授業ガイダンス・社会福祉の意義			* 各回授業範囲のノートまとめ (各1時間) と授業後の指定された事例の検討 (1時間)		
2) ノーマライゼーション・インテグレーション・インクルージョン			第1章事例1～2		
3) 社会福祉のニーズ			第1章事例3～6		
4) 社会参加と自立、平等			第1章事例7～12		
5) 諸外国の社会福祉の歴史の変遷Ⅰ (イギリス・アメリカ)			第1章事例13～19		
6) 諸外国の社会福祉の歴史の変遷Ⅱ (北欧・ヨーロッパ諸国・アジア)					
7) 日本の社会福祉の歴史の変遷Ⅰ (戦前・戦中)			第2章事例1～4		
8) 日本の社会福祉の歴史の変遷Ⅱ (戦後)					
9) 子ども家庭支援と社会福祉			第1章事例20～27		
10) 日本の社会保険制度			第2章事例5～8		
11) 社会福祉専門職の概要			第2章事例9～17		
12) 相談援助の理論と対象			第3章事例1～4		
13) 相談援助の方法と技術			第3章事例5		
14) 現代社会の福祉課題			第4章事例1～2		
15) 共生社会と福祉ネットワーク			第4章事例3～8		
[使用テキスト] 吉田 眞理 『生活事例からはじめる新版社会福祉』第11版 2024 青鞥社					
[参考文献] 授業回ごとに資料配布					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (30%)		各回の事例の内、指定したものについてレポート提出を実施。			
②実技・作品発表等 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (70%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] ・提出された課題についてコメントする。 ・筆記試験後に正答を開示する。					
[備考]					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-34-16

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 障がい者福祉論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 余村 望	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元知的障害者援護施設職員の実務経験も踏まえて障がい者福祉の実践を交えて講義する。				
[授業の目的・ねらい] 障がい及び障がい者福祉に関して、福祉専門職として求められる知見を獲得し、障がい児者に対する専門的支援に参加できる技能を身につける。					主に対応するDP 3+4
[授業全体の内容の概要] 障がいの概念、障がい者福祉の歴史と制度の変遷、障がい者とその家族の就労と生活、社会的環境について理解を進め、支援のあり方等福祉専門職としての基礎的理解を深める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 職場、居住地域において多様な関係者と、障がい児者に対する専門的支援ができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 授業ガイダンス～障がい者福祉とは何か (課題1) 障がい児者に対する偏見、差別の事例を調べ、「障がい」を持つことがなぜ偏見や差別につながるのかを考察する。			・当該コマ学習資料 (前回配布) の読み込み (各回1時間)		
2) 障がいの概念～国際障害分類 (ICIDH) から国際生活機能分類 (ICF) へ (課題2) 社会環境を構成する一人の住民として社会的不利への自分なりの対応策を考察する。			・当該コマ学習資料 (前回配布) の自己ノート作成 (各回30分)		
3) 障がいを持つ人の暮らしと支援～障がい者の生活実態①			・当該コマで提示する小レポート作成 (各回1時間)		
4) 障がいを持つ人の暮らしと支援～障がい者の生活実態② (課題3) 障がい者の生活実態と、自分自身の生活実態を比較して、福祉専門職として考えられる支援について考察する。					
5) ノーマライゼーション・インクルージョン (課題4) 障がいを持つ人たちに対する「普通」ではない社会的対応に何があるか考えてみる。					
6) 「障害者総合福祉法の骨格に関する総合福祉部会の提言」から障害者総合支援法の成立へ (課題5) 骨格提言と総合支援法の内容の違いを考察してみる。					
7) 障がい者福祉制度と専門職の役割 (課題6) 相談支援事例を基に支援のあり方を考察する。					
8) これからの障がい者福祉と求められる地域共生社会 (まとめ) (課題7) 提示された課題に基づきディスカッションを実施					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] 『えほん 障害者権利条約』 ふじいかつり 汐文社 2015年 『障害者自立支援法と人間らしく生きる権利』障害者生活支援システム研究会 かもがわ出版 2007年 『私たち抜きに私たちのことを決めないで 障害者権利条約の軌跡と本質』藤井 克徳 やどかり出版					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (30%)	授業態度、提出物の提出状況、授業参加度及び評価提出された課題レポートを評価。				
②実技・作品発表等 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (70%)	筆記試験を実施する。				
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] ・到達度確認のための小課題について評価後にコメントする。 ・筆記試験解答についての解説を開示する。					

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-34-17

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 社会的養護 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元児童自立支援施設児童指導員の経験を活かし、施設養護の実態を捉えた講義をします。				
[授業の目的・ねらい] 社会的養護の原理や歴史を踏まえ、現代の社会的養護の現状や背景について、専門的知識に基づいた自分なりの考えをもつことができる。また、子どもの最善の利益を尊重する態度を身に付けることができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] テキストをもとに講義をおこなう。授業内で計3回小テストをおこない、学習内容の定着を図る。 第1回小テストの範囲：社会的養護の基本理念と原理、社会的養護の歴史 第2回小テストの範囲：社会的養護の実際					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 社会的養護の歴史的変遷と現代の社会的養護の実態を関連づけることができる。 2. 社会的養護の制度や実施体系について説明できる。 3. 現代の社会的養護の現状と課題を理解し、未来の社会的養護を予測できる。 4. 社会的養護において保育者に求められる専門技術について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 社会的養護の範囲					
2) 社会的養護の基本理念と原理					
3) 社会的養護の歴史 (古代～第一次世界大戦前)					
4) 社会的養護の歴史 (第一次世界大戦～現代)					
5) 子どもの権利擁護/第1回小テスト					
6) 社会的養護の制度と法体系/仕組みと実施体系					
7) 社会的養護の実施① (乳児院、児童養護施設、母子生活支援施設)					
8) 社会的養護の実際② (児童心理治療施設、児童自立支援施設など)					
9) 社会的養護の実際③ (障がい児入所施設、障がい児通所施設)					
10) 社会的養護の実際④ (里親、ファミリーホーム)					
11) 第2回小テスト/社会的養護にかかわる専門機関					
12) 社会的養護にかかわる専門技術① (基本的生活習慣)					
13) 社会的養護にかかわる専門技術② (学習・学校)					
14) 社会的養護にかかわる専門技術③ (対人関係・社会生活)					
15) 社会的養護におけるソーシャルワーク					
[使用テキスト] 喜多一憲 (編), 『みらい×子供の福祉シリーズ第2版 社会的養護 I』, 2024, みらい。					
[参考文献] 田中康雄 (編), 『児童生活臨床と社会的養護』, 2012, 金剛出版。 F.P. バイステック, 尾崎新ら (訳), 『ケースワークの原則 援助関係を形成する技法』, 2008, 誠信書房。 上田敏, 『ICFの理解と活用』, 2011, きょうされん。					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					
②実技・作品発表等 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (100%)		授業修了時の達成課題に示されている4項目について論述問題で評価します。			
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			

受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

[フィードバックの方法]

- ・小テスト実施後に正当を示します。
- ・筆記試験終了後に評価のポイントを提示します。

[備考]

- ・google classroom に大学のアカウントを用いてログインできるようにしておいてください。
- ・スマートフォンは資料を確認する際に使用しますので、持ち込み可とします。
- ・資料の閲覧以外でのスマートフォンの使用、私語や居眠り等が見られた場合は退出を求めます。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-19

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子ども家庭支援の心理学		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 堅田 弘行・藤井 香里 (オムニバス)	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	2単位	配当	2セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもが最初に経験する家庭について、その構造や意義を子どもや家族の発達と関連づけて学習する。多様な家族形態の中で子どもの育ちや保護者の子育てを支えるために必要な心理学の基礎知識を身に付ける。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] この科目は、3セメスターの「子ども家庭支援論」や4セメスターの「子育て支援演習」の基礎科目としての位置づけである。家庭支援や子育て支援に必要な心理学の知識について講義する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 生涯発達に関する心理学の基礎的知識を習得し、初期経験の重要性や発達課題について説明できる。 2. 家庭や家族の意義や構造と個々の発達を関連づけて考えることができる。 3. 多様な家庭や家族を踏まえた子どもや家庭への支援の在り方について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 生涯発達と発達理論【堅田】			発達心理学で学んだ内容を復習する(2時間)		
2) 乳幼児期から学童期にかけての発達の特徴【藤井】			テキスト第1章を読む(1時間)		
3) 思春期・青年期の発達の特徴【藤井】			テキスト第2章を読む(1時間)		
4) 成人期・高齢期の発達の特徴【藤井】			テキスト第3章を読む(1時間)		
5) 家族システムと家庭支援【堅田】			テキスト第4章の1,2,3を読む(1時間)		
6) 家族システムと家庭の発達【堅田】			テキスト第4章の4を読む(0.5時間)		
7) 親子の愛着と親の精神衛生【堅田】			テキスト第5章の1を読む(0.5時間)		
8) 親としての養育スタイルの形成要因【堅田】			テキスト第5章の2,3を読む(1時間)		
9) 社会の変化と多様な子育て環境【藤井】			テキスト第6章を読む(1時間)		
10) 子育てと仕事・ワークライフバランス【藤井】			テキスト第7章を読む(1時間)		
11) 多様な子育て家庭への支援【藤井】			テキスト第8章を読む(1時間)		
12) 特別な配慮を必要とする家庭への支援【藤井】			テキスト第9章を読む(1時間)		
13) 子どもを取り巻く生活環境【藤井】			テキスト第10章を読む(1時間)		
14) 子どもの心身の健康【藤井】			テキスト第11章を読む(1時間)		
15) 障がいのある子どもの理解と対応【藤井】			テキスト第12章を読む(1時間)		
[使用テキスト] 本郷一夫・神谷哲司(編), 『シートブック 子ども家庭支援の心理学』, 2019, 建帛社.					
[参考文献] 繁多進(編), 『子育て支援に生きる心理学 実践のための基礎知識』, 2010, 新曜社.					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認(%)					
②実技・作品発表等(%)					
【定期試験】					
①筆記試験(100%)					
②レポート(%)					
③実技試験(%)					
④面接試験(%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					

筆記試験実施後に解答のポイントを掲示します。

[備考]

平常点評価として授業内に小テストをおこなう場合があります。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-23

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの保健		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 前林 英貴	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	大学病院の小児科病棟勤務経験のある教員が、その経験を活かした具体的、実践的な講義を行う。				
[授業の目的・ねらい] 成人とは違う子ども特有の生理機能・運動機能・精神機能を学習しながら、子どもの健康と疾病について理解を深める。また、子どもの健康増進のために必要な知識を身に付けることで、保育者として適切な対応・支援ができる基礎を養う。					主に対応するD P 1
[授業全体の内容の概要] 現在の小児保健の現状と子どもの心身の健康増進を図る保健活動について学ぶ。保育専門職として、平均的な子どもの発達と評価方法を理解し、子どもの成長・発達に関する基礎的な知識について学ぶ。また、この講義では子どもの精神保健についても理解を深めていく。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 子どもの心身の健康増進を図る保健活動の意義を理解することができる 2. 子どもの身体発育、生理機能、運動機能の発達について理解することができる 3. 子どもの健康状態の把握と疾患の特徴や予防、適切な対応について理解することができる 4. 保健活動における地域連携と、多職種間の協働について理解することができる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保健活動の意義 (母子保健の統計により)			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
2) 子どもの健康とその評価			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
3) 地域における保健活動 (現状と課題) と児童虐待			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
4) 子どもの身体発育と計測方法			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
5) 生理機能の発達 「代謝・免疫」			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
6) 生理機能の発達 「呼吸・循環」			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
7) 生理機能の発達 「睡眠・排泄」			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
8) 運動機能の発達			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
9) 予防接種について			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
10) 子どもの疾患の症状とその対応 (その①)			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
11) 子どもの疾患の症状とその対応 (その②)			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
12) 子どもに多くみられる疾患「先天性疾患、神経系疾患」			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
13) 子どもに多くみられる疾患「心臓疾患、呼吸器疾患」			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
14) 子どもに多くみられる疾患「血液疾患、腎疾患、内分泌疾患」			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
15) 保健活動における連携			テキストを予習しておくこと (30分程度)		
[使用テキスト] 「子どもの保健 第7版 追補」 巷野悟郎編 診断と治療社					
[参考文献] 講義に必要な資料を授業の中で紹介する					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					
②実技・作品発表等 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (100%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価			<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない		

[フィードバックの方法]

毎授業後に授業アンケートを実施し、質問があれば次の講義でフィードバックします。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-27

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの食と栄養	授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習	授業担当者 永見 葉子
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	小児病棟有床の病院勤務での栄養管理を具体的な演習やグループワークを通して学習に活かす	
[授業の目的・ねらい] 専門的知識に基づき子どもの健康・発育・食を営む力を培い、子どもに有益な食育を行うことができるようになる。		主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 子どものステージ毎の栄養の特性や問題点を学習し、保育の実践的活動に繋がられるよう演習やグループワーク、座学を通して学習。		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ① 栄養の基本及びバランス食を理解し、子どもに分かりやすい説明ができる。 ② 食物アレルギー、感染症のリスクを理解し、危機管理対策案を挙げることができる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		[準備学修の内容]
1) 子どもの健康と食生活の意義と問題点 (座学)		
2) 栄養の基本、代謝を理解し子どもへ分かりやすい表現を学習		
3) 栄養素の種類と働きを理解し子どもへ分かりやすい表現を学習		授業内容を踏まえ、模造紙に各班でまとめ (1時間)
4) 5大栄養素の種類と働きを模造紙にまとめて発表 (グループワーク)		同上
5) 日本人の食生活の目標 献立作成・調理の基本 (座学)		
6) 食事バランスガイド及びバランス食の理解を深める (座学)		自身の3食の記録をまとめ (1時間)
7) 妊娠期・授乳期・乳児期の意義と食生活 母乳の利点・欠点 (座学)		
8) 離乳期の意義と食生活 (座学)		
9) 乳幼児期・学童期・思春期の心身の発達と食生活 (座学)		
10) 家庭や児童福祉施設における食事と栄養 (座学)		
11) 施設における衛生管理・食中毒のリスク管理 保健日より作成		
12) 特別な配慮を要する子どもの食と栄養 食物アレルギー (座学)		
13) 食育計画 P D C A サイクル食育計画書作成		
14) 地域や家庭と連携した食育の展開の理解 実践 (グループワーク)		食育テーマに基づき媒体作りを各班でまとめ (1時間)
15) 食育テーマに基づいた発表 (グループワーク) 総まとめ		
[使用テキスト] 子どもの食と栄養		
[参考文献] 「元気な子供を育てる！保育園の食事&健康だより」「あんしん、やさしい離乳食オールガイド」		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		
【平常試験】		
①到達度の確認 (%)		
②実技・作品発表等 (%)		
【定期試験】		
①筆記試験 (100%)		
②レポート (%)		
③実技試験 (%)		
④面接試験 (%)		
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない	
[フィードバックの方法] 筆記試験について正答を試験期間終了後開示		

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-28

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育の計画と評価	授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義	授業担当者 増原 真緒・舟越 美幸 (オムニバス)	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター	資格必修
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験 保育者としての実践経験を基に、保育における計画と評価のあり方について伝えます。			
[授業の目的・ねらい] ・保育内容の質の向上に資する保育の計画及び評価の方法について説明できる。 ・全体的な計画と長期計画・短期計画についてその意義と方法を理解し、実践できる。 ・子ども理解と保育の計画のつながりについて理解し、実践できる。			主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] ・保育所・認定こども園における保育の全体的な計画や子ども理解とのつながりを理解し、計画から評価までを含む一連の保育計画と改善方法を学ぶ。 ・年間計画・月案・週案・日案・部分指導案について理解し、指導案作成の技能について学ぶ。			
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] 保育の計画や評価と保育の全体的な計画とのつながりについて理解を深め、その意義や特徴を説明できるとともに、指導案作成や保育の質の向上に必要な視点を説明できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		[準備学修の内容]	
1) 指導計画作成に当たっての基本的な考え方 (舟越)			
2) 保育所保育指針解説「保育の計画及び評価」 (舟越)			
3) 指導計画作成の具体的な手順とポイント (舟越) ・第1-2回の小テスト(筆記)		第1-2回までの内容について振り返り学習しておくこと。(2時間)	
4) 長期計画の作成と実際① グループワーク (舟越)		期日までに作成し提出すること。(1時間)	
5) 長期計画の作成と実際② グループワーク (舟越)		期日までに作成し提出すること。(1時間)	
6) 短期計画の作成 (舟越)		期日までに作成し提出すること。(1時間)	
7) 保育における保護者との日常的情報共有 (増原) 連絡帳を記入する際の視点と書き方のポイントを知り、実践			
8) 保育における保護者への情報提供① (増原) 園だより及びクラスだよりを作成する際のポイントを知り、作成			
9) 保育における保護者への情報提供① (増原) 作成したおたよりの発表を通して他者から工夫やアイデアを学ぶ		教員の示す期日までに、おたよりを完成させて提出すること。(約1~2時間)	
10) 短期計画と評価：保育の計画から実践の実体験 主な活動の時間における指導案部分的な保育について、教員による指導案例の提示から作成方法を学ぶ			
11) 保育指導案の作成①：グループワーク (増原) 活動を全体的に捉え、指導案を作成			
12) 保育指導案の作成②：グループワーク (増原) 指導案の修正および実践に向けたグループでの打ち合わせ		第11回で作成を始めた指導案を、教員の示す期日までに完成させて提出すること。(1時間)	
13) 保育指導案の実践①：グループワーク (増原・舟越)			
14) 保育指導案の実践②：グループワーク (増原・舟越)			
15) 保育の質の向上に向けた改善(ディスカッション) (増原) 指導案の改善、ねらい及び内容の検討			
[使用テキスト] 実習運営委員会、『実習ガイドブック』2024、大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 厚生労働省、『保育所保育指針解説』2018、フレーベル社			
[参考文献]			
[試験の方法と学修成果の評価基準]			
【平常試験】			

① 到達度の確認 (85 %)	第 3 回小テスト (20%) 第 4～5 回：長期計画の作成①② (各回 5%) 第 6 回短期計画の作成 (10%) 第 7 回:連絡帳の提出と内容 (10%) , 第 8 回:おたよりの提出と内容 (10%) , 第 9 回:発表の工夫 (5%) , 第 11-12 回:指導案の提出と内容 (10%) , 第 15 回：ワークシートの提出と内容 (10%)
②実技・作品発表等 (15 %)	第 13-14 回：実践の内容 (15%)
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ・提出された課題について授業内で解説したり、コメントしたりする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-32

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 乳児保育 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 舟越 美幸	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	保育者として現場における実践経験をもとに乳児の育ちと必要な援助について伝えます。				
[授業の目的・ねらい] ・乳児保育の理念と歴史の変遷及び役割等について理解し、現状と課題を説明できる。 ・乳児の生活や遊び・発達過程を理解し、保育者の心構えについて説明できる。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] 乳児保育の現状と役割を理解し、実践的に関わるための知識や支援方法・配慮を学ぶ。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・乳児保育の現状や役割を理解し、課題について説明できる。 ・乳児の生活や遊びを理解し、その特徴や発達過程、興味や関心について説明できる。 ・乳児保育における保育者の援助のあり方について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 「乳児保育 I」ガイダンス・乳児保育の理念と役割・乳児保育の現状と課題					
2) 乳児が生活する場の現状と課題 家庭・保育所・幼保連携認定こども園・幼稚園・地域型保育事業・在宅訪問保育・乳児院 藤永保「人間発達と初期環境」のCDを聴き、初期環境・愛着形成の重要性を学ぶ。					
3) 乳児の生活 信頼関係の形成と学びの芽生え 保育所保育指針：「乳児保育に関わるねらい及び内容」と「1歳以上3歳未満児の保育に関わるねらい及び内容」 乳児保育の基本と環境～「重要な他者」養護の働きと教育の働き・基本的信頼～					
4) 乳児の発達と保育 (0歳児前半)					
5) 乳児の発達と保育 (0歳児後半から1歳)					
6) 乳児の発達と保育 (1歳から2歳)					
7) 自我の発達とイヤイヤ期： 第一次反抗期と保育者のかかわり					
8) 感触遊び・見立て遊びとオノマトペ ・ゼラチンゼリーと片栗粉を使った感触遊び・牛乳パックを使った見立て遊び ・興味や関心に沿った環境の再構成					
10) 乳児保育と言葉・コミュニケーション 「言葉のビルディング」					
10) 中川信子「言葉を育てる語りかけ育児」のDVDを視聴し、言葉の獲得と保育者の語りかけについて学ぶ。					
11) 乳児院の役割と愛着関係を構築する重要性 *ゲストスピーカー					
12) 乳児保育の遊び① 手遊び					
13) 乳児保育の遊び② 手遊び (グループワーク)					
14) 乳児保育と子ども・親としての発達と地域連携					
15) 保育の全体的な計画と乳児保育における指導計画					
[使用テキスト] ・『乳児の保育新時代』乳児保育研究会 ひとなる書房					
[参考文献] ・『0～4歳 赤ちゃんの言葉が育つ 場面別に楽しむ「語りかけ」』 中川信子 小学館					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (25%)	第2回・第8回・第10回DVDまとめ(各5%)・第11回レポート提出(10%)				
② 実技・作品発表等 (20%)	第13回・14回で行う手遊びの資料作成(10%)・振り返りのワークシート(10%)				
【定期試験】					

① 筆記試験 (55%)	
② レポート (%)	
③ 実技試験 (%)	
④ 面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
・提出された課題について授業内で解説したり、コメントしたりする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-44

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 乳児保育Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 杠 佳子・舟越 美幸 (オムニバス)	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
資格必修	資格必修				
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	保育士・主任・所長として従事し、市・県の代表・教育事務所の職員と行政機関での経験もある。乳幼児の児童の発達や特性を演習等通して指導する事で保育士の専門性について講義する。(杠) 保育者として勤務した経験から保育士の専門性について講義する。(舟越)				
[授業の目的・ねらい] * 乳児期の発達を理解し、人間愛に根ざした保育の援助者としてのあり方を学ぶ。 * 乳児保育・1歳以上から3歳未満児の発育・発達の過程や特性を踏まえ、子どもにとっての望ましい生活環境について理解すると共に基本的な関わり方の技能を習得する。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容概要] * 乳児保育の諸要素を学び、資料をもとに演習、実技、討議の中で乳児保育の基本的なあり方を学ぶ。 * 演習を通して乳児の抱き方や衣服の交換、身体の清潔保持、授乳の方法について体得する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] * 乳児保育における保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領を学び保育士、保育教諭の役割を具体的に理解し、自らの課題に気づき今後の学習目標を見つける。 * 乳幼児が日常生活を過ごすために必要な養護の基本技術を身につけ、その方法について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 「乳児保育Ⅱ」ガイダンス・乳児の育ちを育む養護の技術Ⅰ (舟越) 乳児の抱き方、寝かせ方、おむつ交換、衣服の着脱			・多目的室で赤ちゃん人形を使って演習を行います。髪の毛の長い学生は、髪をまとめて参加してください。		
2) 乳児の育ちを育む養護の技術Ⅱ (舟越) 哺乳器具の取り扱い、調乳、授乳の方法			・4回目は「到達度の確認を行います。第1～3回目の授業を復習し、受講してください(1時間)。		
3) 乳児の育ちを育む養護の技術Ⅲ (舟越) 沐浴の方法、身体計測					
4) 乳児の育ちを育む養護の技術Ⅳ (プレゼンテーション) (舟越) 保育実習Ⅰaに必要な養護技術について到達度の確認を行う。					
5) 保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領に基づき乳児保育における基本について。(杠) 乳児保育・1歳以上3歳未満児の保育のねらい、内容について。 保育環境の重要性。 保育士としての常識とは。			・保育所保育指針解説本と幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説本を持参すること。 ・事前に該当箇所を読んでおく。(30分程度)		
6) 乳児保育の基本 (杠) ①子どもと保育士等との関係の重要性 ②子どもの主体性の尊重と自己の育ち ③生活や遊びを通しての保育やその環境 ④保護者との関わり的重要性 乳児保育での絵本の必要性、読み語りのポイント発達を踏まえた絵本の選択とは			・乳児保育の本①②③④の項目を事前に読んでおく。(30分程度) ・0歳・1歳・2歳の絵本を図書館又は個人用を1冊(どの年齢でもよし)持参。 ・第7回で行う手作りおもちゃ製作の構想や教材・素材の準備をしておく。(30分程度)		
7) 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践(杠) 乳幼児にあつた手作り玩具・おもちゃを学ぶ。 手作りおもちゃ製作実施			・講義内に手作りおもちゃを作成するように心がける。 ・手作りおもちゃの写真添付を次回までにしておく。(30分程度)		
8) 乳児保育における子どもの発育・発達を踏まえた生活と遊びの実践(杠) 手作りおもちゃ・製作表を記入 手作りおもちゃ・製作表を発表(プレゼンテーション)			・発表をする。(手作りおもちゃ・製作表) ・誰にでも理解できるようにはっきりとした言葉・内容を心がけ発表ができるよう練習しておく。(30分程度)		
[使用テキスト] ① 『乳児の保育新時代』乳児保育研究会 ひとなる書房					

② 『保育所保育指針解説』・『幼保連携型認定こども園教育・保育要領解説』 フレーベル館	
③ 必要に応じて資料配付	
[参考文献] アクティブラーニング対応乳児保育Ⅱ：一日の流れで考える発達と個性に応じた保育実践 尾身明美他 萌文書林	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認 (45%)	第1～4回目振り返りシート (20%)、第5～7回振り返りシート (25%)
② 実技・作品発表等 (55%)	第4回目プレゼンテーション(30%)、第8回目手作りおもちゃプレゼンテーション(25%)
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ・演習後に振り返りシートを記入したり、授業内で解説したりする。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-12-45

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 障がい児保育 I	授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習	授業担当者 舟越 美幸	
授業の回数 15 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター	資格必修
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験 保育者として実践経験をもとに障がい児の育ちと支援方法についてお伝えします。			
[授業の目的・ねらい] ・障がいのある子どもと共に生きる保育の理念や歴史的変遷について理解する。 ・障がい児について理解し、発達を保障する周囲の環境づくりのあり方や保育の計画について理解する。 ・障がい児を養育する保護者への支援や地域の関係機関との連携について理解する。			主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] ・障がいに応じた教育・保育について学ぶ。 ・障がい児と共に生活する保育の理念や関わりについて事例を通して理解を深める。 ・障がい児・保護者・関係機関との連携に関わり、共に支え合う保育について学ぶ。			
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・特別支援教育としての障害児の教育・保育について学び、インクルーシブ保育に合わない形態 (通級指導、訪問指導、院内学級等) の教育・保育について理解し、説明ができる。 ・人間としての尊厳を重視した障がい児との関わりや支援、保護者や関係機関との連携の在り方を理解し、子どもを支える保育環境づくりについて説明できる。			
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		[準備学修の内容]	
1) 障がい児保育の概要・障がい児保育の歴史的変遷 糸賀一雄 監修「夜明け前の子どもたち」DVD 視聴			
2) 発達と障がい ・発達過程(0歳～6歳)と言葉・概念形成・情動の発達			
3) 子ども主体の環境づくり・個体論的な障がい観と関係論的な障がい観 重要な他者との信頼関係から始まる関係性の発達・愛着・二次障がい			
4) 視覚・聴覚が障がい児の理解と援助			
5) 肢体不自由児・重症心身障がい児・医療的ケア児の理解と援助			
6) 知的障がい児の理解と援助			
7) 発達障がい児の理解と援助			
8) 障がいの理解と発達の援助① 感覚統合と発達を理解し、保育者・友達と楽しむ運動遊びを学ぶ。			
9) 障がいの理解と発達の援助② *ゲストスピーカー 感覚統合や認知発達と遊びの関連性について学ぶ。		ゲストスピーカーの講話を聴き、期限までにレポートを提出すること(1h)	
10) 障がいの理解と発達の援助③ グループワーク 子どもの発達保障 「学び舎ぽっと」玩具づくり(計画)		授業内に玩具づくりが終わらない場合は、期限までに作成し、提出すること。(1～2h)	
11) 障がいの理解と発達の援助④ グループワーク 子どもの発達保証 「学び舎ぽっと」玩具づくり(製作)			
12) 障がいの理解と発達の援助⑤ グループワーク 子どもの発達保障 「学び舎ぽっと」玩具づくり(発表)			
13) 保護者とその家族を支える保育者の役割① ・保護者と信頼関係を築き、子育ての両輪となる支援のあり方について学ぶ。 ・家族や兄弟を地域で支える保育を学ぶ。			
14) 保護者とその家族を支える保育者の役割② 映画「桜色の風邪が吹く」を視聴し、保護者や家族の思いを学ぶ。			
15) 指導計画・支援計画と園内・地域連携 ・障がいのある子どもの発達・興味や関心・最近接領域から保育者や仲間と共に楽しむ生活や遊びを計画立案する。 ・地域の母子保健や医療機関等、発達支援センターとの連携について学ぶ。			
[使用テキスト] ・「障がい児保育」小橋明子・小橋拓真・小山内あかね・竹間うちゆかり, 中山書店, 2019年.			

[参考文献]	
<ul style="list-style-type: none"> ・「最新保育講座 15・障害児保育」鯨岡峻，ミネルヴァ書房。 ・「障害児保育 30 年～子どもたちと歩んだ安来市効率保育所の軌跡～」，ミネルヴァ書房。 ・「どの子にもあ～楽しかった！の毎日を」赤木和重・岡村由紀子・金子明子・馬飼野陽美，ひとなる書房。 ・「『気になる子』が変わるとき - 困難をかかえる子どもの発達と保育」木下孝司，かもがわ出版 	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
① 到達度の確認 (40%)	第 1・3 回のワークシート(各 5%)，第 9 回ゲストスピーカー講話レポート (10%) 第 14 回視聴後のレポート (10%)，第 15 回個別の支援計画 (10%)
② 実技・作品発表等 (15%)	第 10 回：玩具製作の計画 (5%) 第 11～12 回玩具作品 (10%)
【定期試験】	
① 筆記試験 (45%)	
② レポート (%)	
③ 実技試験 (%)	
④ 面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
<ul style="list-style-type: none"> ・提出した課題について授業内で解説したり、コメントを返したりする。 	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-47

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導 I a (保育所)	授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習	授業担当者 増原 真緒
授業の回数 23 回	時間数(単位数) 2 単位	配当 1・2 セメスター
資格必修		
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験 保育士経験を活かし、実習に向かうための知識・技能や、準備等についてお伝えします。		
[授業の目的・ねらい] ・実習の目的や内容を理解し、実習に臨む心構えを作る。 ・実習日誌の記録方法を身に付け、日々の振り返りや保育の計画の繋がりを理解する。 ・手遊びおよび絵本の読み聞かせの実践から保育技術を学び、実践できるようになる。 ・事後指導や報告会を通し、保育の評価を行うことで、次の実習への新たな課題や学習目標を明確にする。		主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] ① 実習の目的・概要を理解し、実習に向かう心構え・留意事項・自己課題を明確化する。 ② 「観察・参加体験」で実際の保育に触れ、記録の方法を身に付ける。 ③ 導入および「部分実習」について理解する。 ④ 事後学習を通して実習での学びを深める。		
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ・保育所の一日の流れや保育者の役割、子ども理解の大切さを理解し、実習日誌の記入ができる。 ・「部分実習」で実施する内容について理解し、実践やその事前準備ができる。 ・事後指導や実習報告会を通して省察を行うことで、次の実習への新たな課題や学習目標を明確化し、表明できる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		[準備学修の内容]
1) ・オリエンテーション：講義概要の確認と本科目の説明 ・保育実習 I a および保育実習全体の流れ ・心得と事前準備：基本姿勢と実習態度(マナー)、健康管理 ・保育実習 I a で習得すべき内容		※授業内で実施する「観察・参加体験」および保育実習 I a (保育所) に向け、一人の社会人として保育現場へ臨むことができるよう、日頃から挨拶、マナー、立ち居振る舞いに留意すること。 ※本科目では計画的な課題への取り組みと提出を重視するため、取り組み姿勢および提出期限の厳守を心がけること。(各回 0.5 時間程度)
2) ・保育への参加の仕方と保育補助、保育所とは ・「実習個人票」の作成 ・名札の作成について ・観察参加体験ガイダンス：観察・参加体験の概要説明、当日までの流れと準備		
3) ・観察参加体験の詳細について：メンバーおよび体験先施設の発表 ・当該施設についてグループごとに調べ、通勤方法や集合場所、時間等の決定を行う〈グループワーク〉 ・実習における守秘義務、「実習に関わる誓約書」(観察・参加体験用)の作成 ※ 印鑑を持参すること		
4) ・観察の視点：関与観察から始まる子ども理解、保育者の援助・意図の理解、メモの取り方 ・子ども理解を深めるための観察の視点と関わり (課題の提示) ・観察・参加体験前オリエンテーションに向けた電話の方法についての説明 ・観察・参加体験に向けたオリエンテーションとマナーについての説明		
5) ・実習期間中の挨拶とマナー ・子ども理解と「受け止める」こと(多角的な視点を持つことの重要性)〈フォトランゲージ〉 ・グループディスカッションを通じた気づきの共有から学びを深める〈グループワーク〉		
6) ・実習日誌の記録方法 (1-1) : 実習日誌の意義、取り扱いおよび基本・留意事項 ・時系列の書き方と実践 (自己目標、ねらいと内容、出欠人数)		
7) ・実習日誌の記録方法 (1-2) : 時系列の書き方と実践		

(子どもの姿と環境構成, 保育者の関わり, 実習生の行動等) ・DVDの視聴を通して実習生の事例を参考に学び, DVD視聴から実習日誌の記録実践	
8) ・実習日誌の記録方法(2): 場面記録(エピソード)の書き方と実践(DVDの視聴を通して実習生の事例を参考に学ぶ) ・観察・参加体験に向けた最終確認 ・手遊びの習得と実践	
9) ~14) 【観察参加体験】 : 7月11日・12日 9:00~14:30 *帰宅後はメモをまとめ, いずれか1日の実習日誌を作成のうえ, 第15回授業に持参すること。 *「観察・参加体験 振り返りシート」を記入のうえ, 第15回授業で提出すること。	・観察・参加体験後, 「実習日誌」および「振り返りシート」を作成し, 第15回の授業において持参すること。(授業時提出)(2~4時間程度) ※科目担当教員およびアシスタント講師による実習日誌の添削指導を行う。
15) ・観察参加体験の振り返り(グループワーク・ディスカッション)	
16) ・「実習課題と取り組み」の作成方法 ※ パソコンおよび文書の保存媒体(USB等)の持参必須	
17) ・「実習様式集」および「実習ファイル」の配布と説明 ・実習前オリエンテーションに向けての電話および当日の受け方について ・手遊びの習得と子どもの心を惹きつける技術について	
18) ・実習日誌の記録実践(見直しと改善から): <u>到達度の確認</u> ・実習報告書の作成方法	
19) ・お礼状の書き方と実習終了後の流れ ・部分実習についての最終確認 ・実習の最終確認	第18回授業で保育実習Ia(保育所)に向けた到達度の確認として実習日誌の記録に取り組む。その内容により, 補習等を受ける必要も出てくるため, 必ず提出すること。(2~3時間程度)
20) ・実習の振り返り(各施設の特色や保育技術, 部分実習等について)	
21) ~22) 【実習報告会】	
23) ・実習報告会を通しての振り返り(子ども理解の深化と共有)	
[使用テキスト] 実習運営委員会, 『実習ガイドブック』, 2024, 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科(松江キャンパス)	
[参考文献] ・小櫃智子ら, 『保育所・幼稚園・認定こども園実習パーフェクトガイド』, 2017, わかば社 ・小櫃智子ら, 『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』, 2015, わかば社	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認(100%)	実習準備および実習後指導として提示する課題(実習個人票, 観察・参加体験に係る書類, 誓約書, 子ども理解レポート, フォトランゲージシート, 実習日誌等)の提出期限厳守および提出物の内容について評価します。また, 第18回で作成する実習日誌の提出および記述内容から記述ポイントと技能について到達度の確認をした上で実習へ送り出します。
②実技・作品発表等()%	
【定期試験】	
①筆記試験()%	
②レポート()%	
③実技試験()%	
④面接試験()%	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	

提出された課題についてその都度、授業内で解説・コメントをします。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-PC-50-70

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習指導 I b (児童福祉施設)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元児童自立支援施設児童指導員としての実務経験を活かし、施設における日常生活支援の内容と方法について伝えます。				
[授業の目的・ねらい] 事前指導では、各実習施設の社会的役割と機能、児童福祉施設等での実習の目的、実習の内容、実習の記録の書き方等を学ぶ。実習後は、実習体験を振り返り、報告書に気づきや課題などをまとめることで、2年次の実習への課題や学習目標を明確にすることをねらいとする。保育実習指導では、これまで学習した様々な教科目と実習との関連を意識した内容になるため、すべての DP と共通する。					主に対応する DP 5
[授業全体の内容の概要] 実習に関わる書類の添削指導等においては全専任教員が関わる。第 1 回～第 10 回は児童福祉施設等の生活の様子について視聴覚教材等を用いて授業を行いながら、実習施設のイメージを高めることを目指す。グループ学習を通して実習施設の概況や法的位置づけ等を学び、実習施設の理解を深める。第 11 回以降は実習終了後に行い、グループでの振り返りや実習報告会を実施する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 実習や実習報告会に取り組み、児童福祉施設等における利用者等の実態について説明できる。 2. 実習や実習報告会に取り組み、児童福祉施設における保育者や職員の役割、職務について説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 保育実習 I b(児童福祉施設)の範囲、社会的養護を取り巻く近年の動向					
2) 実習に向けた準備① (実習施設の公表) ・保育実習 I b の意義と目的、内容と目標、実習に向けた心構え ・個人票を加筆修正する。実習ファイルを作成する。			・第 1 回事前指導授業課題に取り組む(1 時間)		
3) 実習に向けた準備② (実習施設の概況の理解) ・実習施設の概況について調べ、ワークシートを完成させる。			・個人票を完成させる(0.5 時間) ・第 2 回事前指導授業課題に取り組む(1 時間)		
4) 実習に向けた準備③ (実習施設の生活の理解、対象者理解) ・日課の意味や目的について第 3 講のワークシートをもとに話し合う。 ・過去の実習での実践事例から対象者理解を試みる。			・第 3 回事前指導授業課題に取り組む(1 時間)		
5) 実習に向けた準備④ (実習生の心構え①) ・実習施設が求める実習生について確認する。 ・BIG FIVE 尺度から自己分析をし、自分の強みを探す。			・第 4 回事前指導授業課題に取り組む(2 時間)		
6) 実習に向けた準備⑤ (実習生の心構え②) ・ロールプレイを通して生活を捉えることを試みる。 ・DVD 教材をもとに、“タイチ”の生活機能を捉える。			・第 5 回事前指導授業課題に取り組む(1 時間)		
7) 実習に向けた準備⑥ (実習生の心構え③/実習課題の設定①) ・実習生に求められる生活技術、専門性、態度を学ぶ。 ・実習生としての PDCA サイクルを理解する。 ・目指す保育者像を明確にする。			・第 6 回事前指導授業課題に取り組む(1 時間)		
8) 実習に向けた準備⑦ (実習課題の設定②) ・「実習課題と取り組み」を完成させる。			・第 7 回事前指導授業課題に取り組む(1 時間)		
9) 実習に向けた準備⑧ (実習記録の記入①) ・DVD 教材から実習日誌の模擬記録に取り組む。			・第 8 回事前指導授業課題に取り組む(1 時間)		
10) 実習に向けた準備⑨ (実習記録の記入②と振り返り) ・添削された模擬記録に修正を加える。 ・実習日誌(サンプル)の添削を行い、添削箇所をグループで確認する。			・第 9 回事前指導授業課題に取り組む(1 時間) ・実習日誌(サンプル)を添削する(2 時間)		
11) 実習の振り返り① ・お礼状、実習報告書の記入のポイントを押さえ、作成する。			・第 10 回事前指導授業課題に実習実施前までに取り組む(1 時間) ・お礼状を作成する(1 時間)		
12) 実習の振り返り②			・実習報告書を作成する。		

・実習報告書の作成。発表の準備をする。	・発表資料を作成する。
13) 実習報告会① ・実習施設ごとに実習施設の様子を発表する。	・実習報告書を一読する (2時間) ・発表原稿を作成する(2時間)
14) 実習報告会② ・実習施設ごとに実習施設の様子を発表する。	
15) 実習報告会③ ・グループに分かれて、実習で気づいたこと、学んだことを発表する。	
[使用テキスト] 実習運営委員会、『実習ガイドブック』, 2024, 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 (松江キャンパス) .	
[参考文献] 田中利則(監), 『事例を通して学びを深める施設実習ガイド』, 2018, ミネルヴァ書房.	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (60%)	各回における課題の提出状況と内容によって評価する。
②実技・作品発表等 (40%)	実習報告会での発表によって評価する。
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 提出課題にコメントをつけて返却する。	
[備考] 1. classroom を使用するので、アクセスできる端末を準備してください。 2. 「保育実習 I b (児童福祉施設)」と同時に履修することが必要です。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-PC-50-67

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習 I a (保育所)	授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習	授業担当者 増原 真緒
授業の回数 80 時間	時間数(単位数) 2 単位	配当 2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元保育士の視点から、保護者支援、保育の計画等、実習における学びについて指導します。	
[授業の目的・ねらい] ・保育所の機能や役割について理解し、保育者の仕事内容を知る。 ・子どもとの交流や保育者の行動観察を通して、子どもの発達や保育内容についての理解を深める。 ・関わりや観察を通し、子どもの言動から内面を想像し、保育者の専門性について学習する。		主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] ① 保育所の役割や機能を理解する。 ② 観察や子どもとの関わりを通して子どもへの理解を深める。 ③ 授業で習った他教科の内容を踏まえ、生活や遊びと保育環境とのつながりを総合的に学ぶ。 ④ 保育の観察から記録をすること、部分的な保育の計画及び自己評価について理解する。 ⑤ 保育士の業務内容や職業倫理について学ぶ。		
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・保育所の役割や機能等について現場での体験を通して理解し、説明することができる。 ・各年齢の生活や遊び、発達過程について、実習にて経験したことから子どもの実態について説明することができる。 ・保育士の姿から手遊び等の保育技術を習得し、他者に伝えることができる。		
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]		[準備学修の内容]
<p>① 保育所の役割や機能の理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育所、認定こども園の生活と一日の流れを理解する。 ・保育所保育指針、認定こども園教育・保育指針と照らし合わせながら、社会的役割や機能について総合的に理解する。 <p>② 子ども理解</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども一人一人やクラス集団を観察し、発達過程や子どもの思いや姿を理解する。 ・養護・教育的な関わりを通して、子ども一人一人やクラス集団を理解する。 ・保育士の子どもの関わりから、その意図や配慮を学ぶ。 <p>③ 生活や遊びと保育環境のつながり</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子どもの発達過程と生活や遊びに応じた保育環境について学ぶ。 ・子どもの健康と安全への配慮について学ぶ。 <p>④ 観察、記録、計画及び自己評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育の観察、記録、計画及び自己評価について理解する。 ・実習日誌の記録の方法と気づきについて理解し、考察する。 ・保育者の姿を参考に手遊び・絵本読みなどを経験する。 ・指導案を作成し、手遊び・絵本読みなどの部分実習を行う。 <p>⑤ 保育士の職務内容と職業倫理</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保育士の職務内容を実践的に学ぶ。 ・職員間の役割分担や連携について理解する。 ・保育士の社会的役割と職業倫理について学ぶ。 		<p>※実習に向けて、および実習期間中は、実習指導 I a (保育所) で学ぶ内容と大学にて学習した内容の振り返りと照らし合わせから学びを深めることを求めます。また、期間中は実習から帰宅後に実習日誌を作成します。(各日 2~3 時間程度)</p>
[使用テキスト] ・実習運営員会、『実習ガイドブック』, 2024, 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 (松江キャンパス) ・厚生労働省、『保育所保育指針解説』, 2018, フレーベル館		
[参考文献] ・小櫃智子ら『保育所・幼稚園・認定こども園実習パーフェクトガイド』, 2017, わかば社 ・小櫃智子ら『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』, 2015, わかば社		
[試験の方法と学修成果の評価基準]		

【平常試験】	
①到達度の確認（40％）	実習前指導における課題の提出および内容（課題と取り組み，身だしなみ検査）と，実習後指導における課題の提出および内容（お礼状，実習報告書，実習ファイル）によって評価します。
②実技・作品発表等（60％）	実習施設より「実習態度」「子ども理解・対応」「知識・技術・判断」において全14項目から評価していただきます。
【定期試験】	
①筆記試験（　％）	
②レポート（　％）	
③実技試験（　％）	
④面接試験（　％）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
実習終了後，実習評価の返却とともに個々の課題について指導を行います。	
[備考]	
この科目を履修するためには，「保育実習指導Ⅰa（保育所）」を履修しなければならない。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-PC-50-70

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育実習 I b (児童福祉施設)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 実習		授業担当者 堅田 弘行	
授業の回数	80 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 1. 多職種と連携して行う保育者や職員の生活支援に対する観察や生活への参加を通して、子どもや利用者の理解を深める。 2. 実習施設における PDCA サイクルの取り組みについて理解する。 3. 実習に必要な記録の書き方を身につける。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 各学生を乳児院、児童養護施設、児童発達支援センター、障がい児入所施設、児童心理治療施設、児童自立支援施設、障がい者支援施設、障がい福祉サービス事業所に振り分け、実習をおこなう。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 実習施設の社会的役割、機能、職務内容、子どもや利用者の生活の様子について説明できる。 2. 保育者としての職業倫理について考え、子どもの最善の利益を追求した実践について討論できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]					[準備学修の内容]
<p>① 各実習施設の社会的役割と機能について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各実習施設の生活の様子と一日の流れを理解する。 各実習施設の社会的役割と機能について、実習を通して総合的に理解する。 <p>② 各実習施設の生活に参加し、観察や関わりを通して子どもや利用者を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 子どもや利用者の発達過程や特性を理解し、子どもや利用者の思いを汲み取る。 子どもや利用者の思いを受けとめ、実習指導者の指導や配慮のもと、子どもや利用者との関わりを積極的に行う。 <p>③ 各実習施設の子どもや利用者の生活や発達過程を理解し、生活支援や生活援助の方法を理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育者や職員が行う生活支援の方法を観察し、実践する。 各実習施設の生活に参加することを通して、子どもや利用者一人一人の様子や保育者の関わりを観察し、実践する。 <p>④ 各実習施設のPDCA サイクルに基づく取り組みについて理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 活動や援助における計画の必要性について理解する。 記録に基づく省察や自己評価をする。 <p>⑤ 各実習施設の職務内容や多職種との連携、職業倫理について理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> 各実習施設の職務内容を実践的に理解する。 多職種との役割分担や連携について理解する。 人権を尊重し、倫理観をもった関わり方を理解する。 安全や健康への配慮を身につける。 					<p>※実習に向けて、および実習期間中は、実習指導 I b (児童福祉施設) で学ぶ内容と大学にて学習した内容の振り返りと照らし合わせから学びを深めることを求めます。また、期間中は実習時間外に実習日誌を作成します。(各日 2~3 時間程度)</p>
[使用テキスト] 実習運営委員会、『実習ガイドブック』, 2024, 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 (松江キャンパス) .					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (60%)	実習施設による「実習態度」「知識・技術・判断」に関する項目について評価する。				
②実技・作品発表等 (40%)	実習日誌と実習報告書によって評価する。				
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					

②レポ ー ト (%)	
③実 技 試 験 (%)	
④面 接 試 験 (%)	
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 実習終了後、実習評価の返却とともに個々の課題について指導をおこないます。	
[備考] ・この科目は「保育実習指導 I b (児童福祉施設)」と合わせて履修する必要があります。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-PC-50-71

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 教職論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 深見 俊崇	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	1 セメスター
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] ディプロマポリシーに掲げられる「専門的知識に基づき、子どもの最善の利益を尊重することができる」「社会のあり方について考える・実践する」を踏まえ、教職の意義、教員の役割・資質能力・職務内容等について学び、教職のあり方を考察することを通して、自身の適性を判断したり、進路選択の方向性について検討したりすることをねらいとする。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 社会・文化的環境の変化に伴い、保育ニーズは年々多様化しており、幼稚園教諭・保育士等の保育者の役割と責務はますます重要なものとなっている。本科目では、主に幼稚園教諭の役割、責務、専門性、倫理などを理解した上で、改訂された幼稚園教育要領の方向性を学びながら、これから求められる教職（保育職）のあり方を検討していく。それらを基に教育実習をはじめとするそれぞれの科目の学びの基盤を形成していく。					
[授業修了時の達成課題（到達目標）]					
1. 公教育としての保育の役割とそれを担う幼稚園教諭・保育士の職務内容を具体的に説明できる。					
2. 幼稚園教諭・保育士の専門性と求められる倫理について具体的に説明できる。					
3. 歴史的な背景を踏まえながら、現在求められる教職（保育職）の役割について説明できる。					
4. 講義内容を踏まえて、目指すべき保育者像を形成し、それを言語化できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 保育者の存在意義と役割			予習 (テキスト第1章) (1時間程度)		
2) 期待される保育者像			予習 (テキスト第2章, 第3章) (1時間程度)		
3) 幼稚園教諭・保育士の要件と責務			予習 (テキスト第3章, 第4章) (1時間程度)		
4) 幼稚園教諭・保育士の職務内容 (幼稚園教諭の仕事)			予習 (テキスト p.42-44, 資料) (1時間程度)		
5) 幼稚園教諭・保育士の職務内容 (保育士の仕事)			予習 (テキスト p.40-42) (1時間程度)		
6) 幼稚園教諭・保育士に求められる資質能力【ディスカッション】			予習 (テキスト第6・7章) (1時間程度)		
7) 幼稚園教諭・保育士の職務内容 (保護者との協働)【ディスカッション】			予習 (テキスト第10章) (1時間程度)		
8) 幼稚園教諭・保育士の職務内容 (園内外との連携・協働: チーム学校)【ディスカッション】			予習 (テキスト第11章) (1時間程度)		
9) 保育職の歴史と保育者観 (欧米)			予習 (『保育原理』32-41) (1時間程度)		
10) 保育職の歴史と保育者観 (戦前)			予習 (『保育原理』41-43, 48-50, 63-67) (1時間程度)		
11) 保育職の歴史と保育者観 (戦後)			予習 (『保育原理』50-59, 67-77) (1時間程度)		
12) 新しい幼稚園教育要領等で目指すべき保育の方向性			予習 (幼稚園教育要領) (1時間程度)		
13) 現代的課題と保育職の役割 (グローバル化、保育ニーズの変化)【ディスカッション】			予習 (テキスト第13章) (1時間程度)		
14) 現代的課題と保育職の役割 (子育て支援等)【ディスカッション】			予習 (子育て支援資料) (1時間程度)		
15) 学び続ける保育職を目指して			これまでの授業の復習 (1時間程度)		
[使用テキスト]					
佐藤哲也編『子どもの心によりそう保育者論【改訂版】』福村出版					
文部科学省『幼稚園教育要領解説』フレーベル館					
厚生労働省『保育所保育指針解説』フレーベル館					
[参考文献]					
『保育小事典』大月書店					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (40%)		授業中のワーク, 振り返り, オンライン小テスト			

②実技・作品発表等 (%)	
【定期試験】	
①筆記試験 (60 %)	筆記による試験
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 毎回のコメントをまとめたプリントを配布し、解説を行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-20

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 幼児と表現		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦・増原 真緒・長島 佳奈	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	2単位	配当	2セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験		元保育士の観点から、幼児の表現活動における保育の実際や実践等について伝えます。(増原)			
[授業の目的・ねらい] 幼児の表現を支える保育者としての感性や創造性を養うことを目的とする。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 幼児の表現を理解し、領域「表現」の内容を踏まえ、幼児の感性や創造性を豊かにするための、知識・技能・表現力を体験的に習得する。また、自然・生活・人的環境から、身体性を喚起し豊かな感性につなげる。そして、豊かな感性、幼児の生活や遊び、様々な児童文化財から表現活動を構想し、多様な表現活動を展開する。これらの活動を通して、幼児の表現に適した表現方法や表現材料を理解し、表現技術を習得し、表現力の向上を図る。活動の中では相互に学び合う協働的な学習を目指し、表現活動・作品・発表などに ICT を積極的に活用する。さらに、幼児の表現活動と小学校教科との連続性の視点を取り入れる。					
[授業終了時の達成課題 (到達目標)] ①領域「表現」の位置づけや、幼児期における表現に着目した発達過程および表現の特性を説明することができる。 ②幼児期の様々な表現を体験することを通して、基礎的な知識、技能を習得する。 ・五感や身体感覚に働きかける表現活動を通して、多様なイメージを持って表現活動を考えることができる。 ・表現技法や表現材料の特性を活かして表現活動を行い、表現することの楽しさを感じ取ることを通して、表現に必要な知識、技術を習得する。 ・自分たちで考えたり、つくりあげたりした表現の鑑賞を通して、自己の表現を振り返り、他者の表現に共感し、より豊かな表現活動を構想することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション: 授業の概要を理解し、学習の見直しを持つ。 表現: 領域「表現」のねらいおよび内容を理解し、ワークシートにまとめる。【加藤】			テキストの該当箇所読んでおく。(1時間)		
2) 音楽・造形表現①: 音を想像、創造する活動 身の周りの音集めをし、集めた音のカタログ作りを行う。集めた音のイメージを絵に描き、自然物や廃材、楽器等を用いた音の表現を考える。【長島】					
3) 音楽・造形表現②: 音を想像、創造する活動 第2回で描いた絵からイメージされる音づくりを考え、音の再現に向けて準備する。音づくりを行う際、身近にある自然物、生活素材、楽器等を用いた音楽表現にする。【長島】			第2回で絵が完成できなかった場合は完成させておくこと。音の表現をするために使用する自然物や生活素材、廃材などを準備しておくこと。(1時間)		
4) 音楽・造形表現③: これまでに創作した造形表現・音楽表現の発表グループごとに発表をする。第2~3回の創作活動と発表の振り返りを行いながら、子どもの音楽表現について理解を深める。【長島】					
5) 言語・身体表現①: 絵本『もこもこもこ』を見て、その世界観について多角的にイメージを広げる。イメージした内容を他者と共有し、グループごとに一つの表現にまとめる。【増原】					
6) 言語・身体表現②: 第5回で構想した内容について更に見直しを行うとともにグループごとに練習する。【増原】					
7) 言語・身体表現③: 相互に発表・鑑賞することで多様な表現とその世界観を味わう経験をする。その後、相互発表を振り返り、表現の多様性と幼児の表現を認める視点について考えを深める。【増原】			第6回でグループの練習が完了しなかった場合は時間外で打ち合わせをしておくこと。		
8) 発達: 造形表現の発達を、幼児の絵や製作物の事例をもとに、幼児の表現の特徴を考察し、ワークシートにまとめる。【加藤】			テキストの該当箇所読んでおく。(1時間)		
9) 自然環境と表現活動①〈グループ〉: 光と影を用いた表現活動を構想し、スマートフォンで撮影をする。屋内と屋外(大学敷地内)で2種類の作品をつ			事前にグループを編成し、主題と撮影場所を考えておく。(1時間)		

くる。【加藤】	
10) 自然環境と表現活動②〈グループ〉：光と影を用いた作品を鑑賞し、発想のよさや表現の工夫を感じ取る。【加藤】	第9回で撮影した画像をグループで共有しておく。(1時間)
11) 自然環境と表現活動③〈グループ〉：第9回で撮影した画像をwordに挿入し、表現活動と鑑賞のまとめを作成する。【加藤】	スマートフォンで撮影した画像をPCに取り込めるようにしておく。(1時間)
12) 多様な表現活動①：多様な表現活動①：折りの要素を用いた表現活動を行い、作品を学内空間に展示する。展示した作品を鑑賞し、表現のよさを感じ取る。【加藤】	
13) 多様な表現活動②：絵具と紙を用いた伝統的な表現をする。【加藤】	
14) 多様な表現活動③：絵具と紙を用いてモダンテクニックの技法で表現する。【加藤】	
15) 多様な表現活動④：第13回と14回の製作物を用いてコラージュの技法で表現する。【加藤】	
[使用テキスト] 上野 奈初美 編著 『表現指導法』 萌文書林	
[参考文献] 樋口 一成 編著 『幼児造形の基礎』 萌文書林	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認(85%)	【加藤担当回】(60%) ワークシートの記述(15% 第1回、第8回、第11回) 作品・製作物(45% 第9回、第12回、第15回) 【増原担当回】(15%) 第5～7回における構想ワークシートの提出と内容(5%)、 気づき・振り返りワークシートの提出期限厳守と内容(10%) 【長島担当回】(10%) 製作物(5%)、振り返りシート(5%)
②実技・作品発表等(15%)	【増原担当回】(5%) 『もこもこもこ』の言語・身体表現発表 【長島担当回】(10%) 発表
【定期試験】	
①筆記試験(%)	
②レポート(%)	
③実技試験(%)	
④面接試験(%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] ワークシートにコメント付して返却する。作品は鑑賞時に講評する。【加藤】 第5～7回の発表後に身体表現についてのポイントと観点についてコメントする。【増原】 グループ発表の後に総評・コメントをする。振り返りシートにコメントを記述して返却する。【長島】	
[備考] ハサミと糊(スティック糊)を準備する	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-33

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 幼児と言葉		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 増原 真緒・橋本 祐治	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	保育士 (増原) および小学校教諭 (橋本) の経験を活かし、領域「言葉」の視点から保育の実際や幼児期の言葉について伝えます。				
[授業の目的・ねらい] ・保育・教育における保育内容「言葉」のねらい及び内容について、その位置づけと内容を理解する。 ・子どもの言葉の発達と保育者の援助について理解し、主体的かつ対話的な関わりを意識して保育にあたる力を身に付ける。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 担当教員による講義内容を基に、学生自身が実践的に領域「言葉」の構造および保育現場において必要な視点について学びを深める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・保育および幼児教育における保育内容「言葉」のねらい及び内容について、その位置づけと内容を理解する。 ・子どもの言葉の発達と保育者の援助について理解し、主体的かつ対話的な関わりを意識して子どもに関わることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ・保育における「言葉」とは (領域「言葉」のねらい及び内容について学ぶ) 使用テキスト：①②					
2) ・乳幼児における子どもの言葉の発達 使用テキスト：②					
3) ・おはなしのそらぞら (絵本からのおはなしづくり) ① ・子どもをとりまく「言葉」の環境 使用テキスト：②					
4) ・おはなしのそらぞら (1枚の絵からのおはなしづくり) ② ・保育者の言葉の影響と子どもの言葉を豊かにする関わり・援助					
5) ・想像から豊かな言葉への関連と影響 ・豊かな経験の重要性					
6) ・話し言葉と書き言葉 (ことば遊びの演習)					
7) ・幼稚園から小学校への繋がり ・教材活用の実践① (パネルシアター、ペープサート、エプロンシアター等の活用方法)					
8) ・教材活用の実践② (紙芝居の種類、その意義と活用方法) ・子どもの声を「きく」こと ・領域「言葉」をどう捉えるか (最終レポート：到達度の確認)			※期日までに最終レポートを完成させ、提出すること。(2時間程度)		
[使用テキスト] ① 文部科学省、『幼稚園教育要領解説』, 2018, フレーベル館 ② 望月雅和、『子育てとケアの原理』新版, 2022, 北樹出版 ・その他、適宜資料を配布する。					
[参考文献] ・内藤知美、『コンパス 保育内容 言葉』, 2017, 建帛社 ・田中謙、『デザインする保育内容指導法「言葉」』, 2019, 教育情報出版 ・大越和孝ほか、『保育内容「言葉」言葉とふれあい、言葉で育つ』, 2018, 東洋館出版社 ・秋田喜代美、『子どもの姿からはじめる領域・言葉』, 2020, みらい ・小櫃智子ほか、『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』2017, わかば社					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (100%)	第3-4回:お話づくりワークシートの提出および内容 (20%), 全回終了後のファイル提出 (提出の有無, 資料の有無, メモの記載が評価ポイント) (50%) 全回終了後の総合レポートの内容 (30%) を総合的に評価します。				
②実技・作品発表等 ()%					

【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (%)	
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] 各回の授業の最後に質問および解説の時間を設けます。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-34

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 幼児と環境		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 高橋 泰道・加藤 友彦・舟越 美幸	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] ・専門的知識と技能の下に、子どもの発達を保障することができる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 幼稚園教育要領・保育所保育指針・幼保連携型認定こども園教育・保育要領に記載されている領域「環境」をもとに、子どもと人・自然とのかかわりを理解できるようにする。また、実際に身近な自然や素材を活用したものづくりや遊びを通して素材研究ができるようにする。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] (1)日課での「環境」にかかわる保育内容を説明することができる。 (2)身近な自然や素材を使った遊びをつくり、製作することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 乳幼児の遊びと領域「環境」 ・身近な自然・生き物・文字や記号・数量と形等の概要を理解する。			テキストや資料を見て、学習内容を理解しておく。(1 時間)		
2) 身近な自然と身近な素材、原体験、数量理解 (学外フィールドワーク) ・学外で季節の特徴を生かした自然物採集体験を行う。			身近な自然や身の回りの素材や、それらを使った遊びについてイメージする。(1 時間)		
3) 身近な自然や素材を使った遊び① (空気や風) (春の草花、空気や風) (グループワーク) ・採集した自然物を遊びにつなげる体験をする。			身近な自然や素材を使った遊びについて調べる。(1 時間)		
4) 身近な自然や素材を使った遊び② (木の実や落ち葉、土) (グループワーク) ・季節の特徴を生かした体験活動から気づいたことについて話し合い、共有する。			身近な自然や素材を使った遊びについて調べる。(1 時間)		
5) 身近な自然や素材を使った遊び③ (ゴムやおもりを使ったおもちゃ) (グループワーク) ・身の回りの物を遊びにつなげる体験をする。			身近な自然や素材を使った遊びについて調べる。(1 時間)		
6) 身近な自然や素材を使った遊びづくり① (計画、製作) (グループワーク) ・身近な自然や素材を使った遊びをグループで考える。			身近な自然や素材を使った遊びについて調べる。(1 時間)		
7) 身近な自然や素材を使った遊びづくり② (製作、発表準備) (グループワーク) ・身近な自然や素材を使った遊びをグループで考え、製作する。			身近な自然や素材を使った遊びについて調べる。(1 時間)		
8) 製作課題の発表・振り返り (プレゼンテーション) ・グループで製作物を発表し合い、活動を振り返る。			プレゼンテーションを完成させる。(1 時間)		
[使用テキスト] 上中 修編 (2023) 『保育実践に生かす保育内容「環境」』教育情報出版					
[参考文献] 文部科学省『幼稚園教育要領』、厚生労働省『保育所保育指針』、内閣府『幼保連携型認定こども園教育・保育要領』					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (20 %)	授業内で課した振り返りシートの提出とその内容で評価をします。				
②実技・作品発表等 (40 %)	授業内で課した課題の提出物とその内容で評価をします。				
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (40 %)	領域「環境」について、子どもと人・自然とのかかわりについての理解や、身近な自然や素材を活用したものづくりや遊びを通しての素材分析力等について評価します。				
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない				
[フィードバックの方法] 提出課題について、そのポイントを授業後に解説する。					

[備考]質問，相談等ある場合には，GoogleClassroom で連絡する。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-35

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 幼児と健康		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 中谷 昌弘	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	本講義は実務経験のある教員による授業科目であり、教育機関(高等学校)での勤務経験を活かしてより具体的、実践的な授業を進め教員免許取得に関する授業を展開する。				
[授業の目的・ねらい] 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域を踏まえ、健康な心と体を育てるために子どもの心身の発達、運動発達、健康・安全管理について理解する。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域を理解し、健康な心と体を育てるために子どもの心身の発達、運動発達、健康・安全管理について学修する。健康管理や安全教育に関する内容では、健康で安全な生活を営む力を身につける保育・教育のあり方を学修すると共に、子どもの生活リズムと睡眠、生活習慣の形成や病気の予防、安全への配慮、子どもの事故の対応について理解を深める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] (1) 保育所保育指針や幼稚園教育要領、幼保連携型認定こども園教育・保育要領の「健康」領域についてのねらいと内容について理解することができる。 (2) 子どもの身体発達、運動発達等について特徴と意義を理解することができる。 (3) 子どもの健康管理や安全教育に関わる指導の観点について理解することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]				[準備学修の内容]	
1) 保育指針・教育要領・教育保育要領にみる、領域「健康」のねらいと内容					
2) 子どもの健康課題と健康の定義、意義					
3) 子どもの体の諸機能発達と特徴					
4) 子どもの運動発達の特徴と意義の理解					
5) 子どもの事故、事故とその処置及び安全への配慮とけがの予防					
6) 子どもの生活習慣の形成及び病気の予防、紫外線対策					
7) 子どもの生活リズムと睡眠、食、排泄					
8) 子どもの健康に関する課題と展望・まとめ					
[使用テキスト] ・文部科学省「幼稚園教育要領」 ・厚生労働省「保育所保育指針」 ・内閣府「幼保連携型認定こども園教育・保育要領」					
[参考文献] 必要に応じてプリントなどを配布					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (%)					
② 実技・作品発表等 (%)					
【定期試験】					
① 筆記試験 (%)					
② レポート (100%)		毎回授業に行う8回の確認テスト			
③ 実技試験 (%)					
④ 面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] ・提出された課題レポートについて講義時に解説し、フィードバックを行う。					
[備考] ・グループワーク、ディスカッションへの積極的な参加を期待します。					

・集中講義 2024年8月26.27.28.29日(各2コマ)

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-37

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (表現)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 増原 真緒・加藤 友彦	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	保育士の経験を活かして保育内容「表現」における保育の実際と計画について伝えます。(増原)				
[授業の目的・ねらい] 「幼児と表現」で行った表現活動を踏まえ、子どもの表現に即した活動を計画し、指導案の作成から実践を通して幼児期の表現活動を支えるための知識・技能・表現力を身に付ける。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] ① 保育所・幼稚園・認定こども園における表現活動の事例を調査・発表する。 ② 子どもの表現活動について指導案を作成し、模擬保育を実践した後、振り返りから自己省察する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ① 造形・言語・身体・音楽等の表現を総合的に捉え、多様な表現の良さを活かして保育に活用することができる。 ② 保育所・幼稚園・認定こども園における表現活動を知り、活動を計画することができる。 ③ 指導案の作成から模擬保育の実践とその振り返りを通して、保育の表現活動における計画をする際の一助とすることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ・オリエンテーション【主：加藤】 ・保育における表現活動① (グループワーク/ICT) : 保育現場における表現活動の事例と小学校の教科等のつながりを、インターネットを活用して調査し、その結果をワークシートにまとめる。					
2) ・保育における表現活動② (グループワーク/ICT) 【主：加藤】 : 調査した内容を発表する。各グループの発表から、保育現場における表現活動の事例と小学校の教科等のつながりをワークシートにまとめる。					
3) 保育の計画・指導案の作成① (グループワーク) 【主：増原】 各グループで造形・言語・身体・音楽表現それぞれを主の活動とし、他の表現の要素を加味した表現活動についてグループごとにオリジナル要素の工夫点を検討し、子どもの発達や興味・関心に応じた指導案を作成する。					
4) 指導案の作成② (グループワーク) 【主：増原】 作成した指導案の内容を教員による添削指導の内容に基づいて再考・修正する。			第 3 回で作成に取り組んだ指導案は指定された期日までに提出すること。(0.5~1 時間程度)		
5) 教材研究および模擬保育の準備 (グループワーク) 【主：増原】 指導案の内容に即して、大きさや素材など教材の研究をすることで教材観を高める。模擬保育に必要な用具・材料、楽器等を準備する。模擬保育にむけて事前準備および流れの確認やリハーサルをする。					
6) 模擬保育① (グループワーク/ICT) 【増原, 加藤】 グループごとに模擬保育を行う。			模擬保育の実施に向け、グループ内で各自分担して事前準備に取り組む。(0.5~2 時間程度)		
7) 模擬保育② (グループワーク/ICT) 【増原, 加藤】 グループごとに模擬保育を行う。 個別に模擬保育の振り返りおよび教員による総評					
8) まとめ【主：増原】 グループごとに自己評価を行い、模擬保育の振り返りをする。 授業全体の振り返り			※第 8 回授業で活用できるよう第 6~7 回の模擬保育についての振り返りシートを完成させる。(0.5 時間)		
[使用テキスト] ・文部科学省、『幼稚園教育要領解説』, 2018, フレーベル社 ・上野奈初美、『表現指導法 感性を育て、表現の世界を拓く』, 2020, 萌文書林 ・実習運営委員会、『実習ガイドブック』2024, 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 (松江キャンパス)					

[参考文献]	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認（80％）	第1～2回:表現活動調査の提出および内容（30％），第3～4回:指導案の提出および内容と修正（30％），第6～8回:模擬保育の気づき・振り返り用紙の提出及び内容（20％）を総合的に評価します。
②実技・作品発表等（20％）	第6～7回:模擬保育の保育者役および子ども役について評価します。
【定期試験】	
①筆記試験（　％）	
②レポート（　％）	
③実技試験（　％）	
④面接試験（　％）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
<ul style="list-style-type: none"> ・第1～2回の表現活動後のワークシートにコメントを記述する。 ・指導案は第3回に提出されたものを添削する。 ・模擬保育の様子は第7回にコメントをする。 	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-10-39

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育内容 (言葉)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 増原 真緒	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	1 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	元保育士の経験から、「言葉」に着目した保育内容の構造や計画と実践についてお伝えします。				
[授業の目的・ねらい] ・保育・教育における保育内容「言葉」のねらい及び内容について理解した上で、主体的かつ対話的な関わりを意識した保育における言葉の指導法を身に付ける。 ・子どもの言葉を豊かにする児童文化財の活かし方と実践について知識を深め、言葉遊びの指導・実践するための力を身に付ける。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 担当教員による講義および演習を基に、学生自身が実践的に言語表現技術および児童文化財について学びを深め、それらを活用した指導案作成や模擬実践に取り組む形で授業を構成する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・子どもに対する保育者の援助や言語表現技術について理解し、主体的かつ対話的な関わりを意識して言語表現を用いた実践にあたることができる。 ・子どもの言葉を豊かにする児童文化財の活かし方と実践について知識を深め、指導案の作成および保育における言葉遊びの指導・実践に活かすことができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) ・ガイダンス：領域「言葉」とは(確認) ・言語表現技術の習得：絵本の役割と活用の実践(種類, その意義と活用方法)					
2) ・言語表現技術の向上①：ゲストスピーカー(わらべうたの実践)					
3) ・「言葉」に着目した指導案の作成方法の教示 ・保育における導入					
4) ・指導案の作成			※第4回から、第6～7回で実施する模擬保育までに指導案の作成をしますが、教員による添削指導および学生自身の修正作業は授業外の時間に個別に行います。提示された最終提出日に間に合うよう計画的に作成および修正作業に取り組んでください。(1～3時間程度)		
5) ・言語表現技術の向上②(手遊び、音と声を使ったふれあい遊びと身体遊び)					
6) ・作成した指導案に基づいた模擬保育の実施①(保育者役と子ども役に分かれて順に、手遊びおよび絵本の読み聞かせを行う)					
7) ・作成した指導案に基づいた模擬保育の実施②(保育者役と子ども役に分かれて順に、手遊びおよび絵本の読み聞かせを行う) ・模擬保育の振り返りおよび教員からの総評					
8) ・作成した保育指導案を他者とディスカッションし、記述方法と内容の検討から理解を深める。〈グループワーク・ディスカッション〉 ・まとめ：言葉遊びについての指導案と保育の展開の実際(最終レポート)			※期日までに最終レポートを完成させ、提出すること。(1～2時間程度)		
[使用テキスト] ・実習運営委員会、『実習ガイドブック』, 2024, 大阪健康福祉短期大学 保育・幼児教育学科 (松江キャンパス) ・「幼児と言葉」でまとめた資料ファイル ・その他、適宜資料を配布する。					
[参考文献]					

・小櫃智子ほか、『実習日誌・実習指導案パーフェクトガイド』，2017，わかば社

[試験の方法と学修成果の評価基準]

【平常試験】

①到達度の確認（60％）	ゲストスピーカー招聘回の振り返りの提出および内容（10％），指導案の提出および内容と修正（20％），模擬保育振り返りの提出及び内容（10％）を総合的に評価します。全回終了後に総合レポートの期限内提出および記述内容にて評価します。併せて「幼児と言葉」から続けて使用するファイルを提出することで，その内容（資料のファイリング，メモの有無等）に基づいて5点まで加点します。
②実技・作品発表等（40％）	第6～7回の模擬保育について評価します。

【定期試験】

①筆記試験（　％）	
②レポート（　％）	
③実技試験（　％）	
④面接試験（　％）	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

[フィードバックの方法]

- ・指導案は第4回授業後に提出されたものを個別に添削指導するとともに，第8回において評価および作成ポイントについてコメントする。
- ・模擬保育については第7回の実施後にコメントをする。

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-10-40

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 特別支援教育論		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 講義		授業担当者 原 広治	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 特別支援教育を進めていく上で必要な子ども理解と指導・支援の実際について総論的に理解し、基礎的内容を説明できる。また、保護者や関係諸機関との連携の重要性がわかり、そのための実践が提案できる。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 障害だけでなく、特別な教育的ニーズのある子どもに対する尊厳を重視したかかわりや指導・支援の在り方を、講義と演習により概観するとともに、実際の教育現場での観察をとおしてインクルーシブ教育への理解を深める。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 特別な教育的ニーズやインクルーシブ教育について解説できるとともに、子どもや保護者にかかわる際の配慮事項(重要事項)を、具体的な例を示しながら説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 障害のある子どもの保育の歴史の変遷と障害児施策			障害や障害のある人に関する新聞・雑誌記事の要約と、それに対する意見・感想を 300～400 字程度にまとめておくこと。(1 時間)		
2) 発達と障害の捉え直しと支援の視点					
3) 障害のある子どもへのかかわり① (グループワーク)					
4) 障害のある子どもへのかかわり② (グループワーク)					
5) 障害のある子どもへのかかわり③ (プレゼンテーション、ディスカッション)					
6) 障害のある子どもへのかかわり④ (プレゼンテーション、ディスカッション)					
7) 様々な障害の理解と配慮① (グループワーク)					
8) 様々な障害の理解と配慮② (グループワーク)					
9) 様々な障害の理解と配慮③ (プレゼンテーション、ディスカッション)					
10) 様々な障害の理解と配慮④ (プレゼンテーション、ディスカッション)			担当する障害のまとめの完成 (1 時間)		
11) 発達障害のある子どもの理解と援助					
12) 一人一人に応じた保育計画					
13) 職員間の協働・同僚性と他機関との連携					
14) 就学支援と学校との接続					
15) 授業全体のまとめ					
[使用テキスト] 障害のある子とともに歩んだ 20 年 (ミネルヴァ書房)					
[参考文献] シリーズ発達と障害を考える本 (ミネルヴァ書房)、最新保育講座 15「障害児保育」(第 2 版) (ミネルヴァ書房)					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					
②実技・作品発表等 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (100%)		全授業の終了後に提出するレポートを含め、ポートフォリオで評価する。			
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] レポート課題の解答ポイントを、試験期間終了後に示す。					

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-10-30

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 調理実習		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 永見 葉子	
授業の回数	15 回	時間数(単位数)	2 単位	配当	2 セメスター
<input checked="" type="checkbox"/> 実務経験	病院、老人保健施設での大量調理勤務経験や離乳食調理実習経験を活かし、具体的なレシピを元に調理を通して子どもの食管理を理解させる。				
[授業の目的・ねらい] 子どもの発達における食の問題点や留意点を保育士の視点で理解、配慮し衛生管理を意識して実習できる					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 間食・離乳食・幼児食・アレルギー対応食・偏食対策・行事食・郷土食の調理					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)]					
① 子どもにとって安全な食 (サイズ、物性、衛生管理、アレルギー対策) を意識して調理に反映できる					
② 郷土食を学習し、作業性、コスト、栄養面、季節を考慮しつつ献立作成、買い出し、調理できる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 調理実習の注意点、衛生管理、食材の切り方、献立の基本 (座学)					
2) おやつ の 意義・必要性 (実習)					
3) 同上					
4) 離乳食 (前期・中期・後期) の必要性・調理の留意点 (実習)					
5) 同上					
6) 幼児期の食生活と栄養・調理の留意点 食事摂取基準 (実習)					
7) 同上					
8) 子どもの偏食対応について学習 (実習)					
9) 同上					
10) アレルギー対策 代替え食品の選択について (実習)					
11) 同上					
12) 行事食・食文化の理解と盛りつけの工夫 (実習)			行事食の盛り付けの工夫をまとめる (1 時間)		
13) 同上					
14) 食文化・郷土食 (実習)			郷土食の調査まとめ、献立作成、買い出し (1 時間)		
15) 同上					
[使用テキスト] なし (講師作成献立・資料を使用)					
[参考文献] 「子供の食と栄養」「あんしん、やさしい離乳食離乳オールガイド」					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
① 到達度の確認 (%)					
② 実技・作品発表等 (%)					
【定期試験】					
① 筆記試験 (100%)		レポートタイプの形式で試験日に実施			
② レポート (%)					
③ 実技試験 (%)					
④ 面接試験 (%)					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] レポートを添削し返却					

[備考]

いきいきプラザ島根調理実習室にて実施

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-10-53

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 子どもの造形表現		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもの育ちを支える人となるために、造形の知識にもとづき、主題、表現材料・表現技法に応じて心豊かに表現し、作品を鑑賞して表現のよさや工夫を感じ取り、保育・幼児教育における造形表現の技能を習得し、造形表現活動の意義を考察することを目的とする。					主に対応するDP 1
[授業全体の内容の概要] 子どもの造形表現活動に適した表現と鑑賞の活動を通して、感性を磨き、造形表現技能を習得し、表現のよさを感じ取る。表現活動は、個人とグループで、表現材料や表現技法に応じた様々な表現を行う。作品を展示したのち鑑賞する。以上のことを通して、保育・幼児教育における造形表現活動の意義を考察し、レポートを作成する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①表現…主題、表現材料・表現技法の特性に応じて表現できる。 ②鑑賞…表現のよさや工夫を感じ取り、記述し、話し合い、発表できる。 ③まとめ…表現と鑑賞の活動を通して、表現の意義を考察し、レポートを作成できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 絵具の表現：ゆびえのぐを用いてフィンガーペインティングの技法で表現する。制作工程は記録し、活動後にワークシートに感想等を記述する (以下、6回まで同様)。					
2) 固形の描画材と絵具の表現：クレヨンとポスターカラーを用いてパッチの技法で表現する。			主題を考え、アイデアスケッチをしておく。(1時間)		
3) モダンテクニックの表現：ポスターカラーを用いて、スパッターリングの技法で表現する。					
4) 紙素材を用いた表現：色画用紙を用いて、はり絵の技法で表現する。			主題を考え、アイデアスケッチをしておく。(1時間)		
5) 粘土を用いた表現：軽量紙粘土を主に用いて立体的に表現する。			主題を考え、アイデアスケッチをしておく。(1時間)		
6) 人工素材を用いた表現 (グループ)：カラービニールを主に用いて、コスチュームを表現する。			事前にグループを編成し、主題を考え、アイデアスケッチをしておく。(1時間)		
7) 鑑賞：展示した作品を鑑賞し、感じ取ったことを話し合い、発表し、ワークシートにまとめる。					
8) まとめ：学習を振り返り、レポートを作成する。					
[使用テキスト] 上野 奈初美 編著 『表現指導法』 萌文書林 ※「幼児と表現」で使用					
[参考文献] 樋口 一成 編著 『幼児造形の基礎』 萌文書林					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (100%)	作品 (75% 第1～6回 ワークシート (10% 7回) 授業内レポート (15% 8回)				
②実技・作品発表等 (%)					
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (%)					
平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する				

受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない

[フィードバックの方法]

第7回で作品について講評する。

[備考]

受講人数制限あり（20名以内）。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-A-10-62

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 地域実践演習 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行・加藤 友彦・舟越 美幸	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	1セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 主として「子どもの居場所づくり」のためにおこなわれている活動に参加することを通して、地域における福祉活動を体験的に学ぶ。その学びを踏まえて、「子ども家庭福祉」における意義を考察する。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] ・松江市川津公民館での主に小学4～6年生を対象とした夏休み活動「夏休み、なにをする?2024」の準備計画・運営・実践をおこなう。 ・松江市川津公民館でおこなわれる様々な活動にボランティアとして参加する。 ・活動の内容を振り返り、グループで発表する。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①活動の背景や目的を理解し、協調的な姿勢で活動の準備計画・運営・実践をおこなうことができる。 ②実際の活動を通して、地域活動に主体的に参画することの意義を説明できる。 ③活動をもとにみえる地域課題について検討し、その課題の背景や要因について考察することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション ・授業概要の説明/ボランティアとしての心構え/自己目標の設定					
2) 「夏休み、なにをする?2024」の準備・計画① ・役割分担の決定/活動準備					
3) 「夏休み、なにをする?2024」の準備・計画② ・活動準備			授業時間以外に活動準備をおこなう (4h程度)		
4) 「夏休み、なにをする?2024」の実践①					
5) 「夏休み、なにをする?2024」の実践②					
6) ボランティア活動への参加① ・川津ふるさと夏祭り/朝酌川川岸コスモスの種まき					
7) ボランティア活動への参加② ・川津ふるさと夏祭り/朝酌川川岸コスモスの種まき					
8) 活動報告会の準備・資料作成					
[使用テキスト] 松江市川津公民館のホームページ (https://matsue-city-kouminkan.jp/kawatu/katsudou/doc/2024021300060/)					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (%)					
②実技・作品発表等 (40%)		第4回・5回の実践をもとに、到達目標①の評価をおこなう。			
【定期試験】					
①筆記試験 (%)					
②レポート (%)					
③実技試験 (%)					
④面接試験 (60%)		グループでの活動内容の発表をもとに、到達目標②③の評価をおこなう。			
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する			
		<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] グループでの活動内容の発表に対し、総評をおこなう。					
[備考]					

・「夏休み、なにをする？2024」では、授業担当者で予め決定した活動に対し、準備・運営・実践を学生が主体となっておこなう。また、第6回、第7回は土曜日におこなう。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-80

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 地域実践演習Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田 弘行・加藤 友彦・舟越 美幸	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 「子どもの居場所づくり」のための活動の準備・運営を通して、地域における福祉活動を実践的に学ぶ。 その学びを踏まえて、「子ども家庭福祉」における意義を考察する。					主に対応するDP 1+2
[授業全体の内容の概要] ・「子どもの居場所づくり」の必要性や取り組みの実際について講話を通して学ぶ。 ・春休み中の「子どもの居場所づくり」の活動を企画・準備し、運営にあたる。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①活動の背景や目的を理解し、協調的な姿勢・態度、責任感をもって活動に取り組むことができる。 ②「子どもの居場所づくり」のための活動の意義を社会的な背景を踏まえて考察できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション ・授業概要の説明／自己目標の設定					
2) 「子どもの居場所づくり」の必要性、取り組みの実際 ・外部講師による講話 (松江市社会福祉協議会より)					
3) 活動計画の作成、グループ分け					
4) 活動準備・教材研究①			グループごとに活動準備を授業時間外でおこなう。準備にあたって教員が直接指導する場 合がある。(30時間)		
5) 活動準備・教材研究②					
6) プレ発表			プレ発表をふまえて準備をおこなう。 (5時間)		
7) 春休み中の居場所提供① (3/24 または 3/25)					
8) 春休み中の居場所提供② (3/24 または 3/25)					
[使用テキスト] 湯浅誠, 『つながり続けるこども食堂』, 2021, 中央公論新社。					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 ()%					
②実技・作品発表等 (50%)		到達目標①について第7回～第8回の実践によって評価する。			
【定期試験】					
①筆記試験 ()%					
②レポート (50%)		到達目標②について評価する。			
③実技試験 ()%					
④面接試験 ()%					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] グループでの活動内容の発表に対し、総評をおこなう。					
[備考] ・「春休み中の居場所提供」には、活動の反省会や準備等の時間も含む。					

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-12-81

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) キャリアアップ教育 I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	1 セメスター
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 社会に貢献できる人となるために、社会人として必要な知識、教養、コミュニケーション力、人間性を身につける。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] キャリア教育の第1段階と位置づけ、キャリア教育における基礎的・汎用的能力のうち、主に人間関係形成・社会形成能力と自己理解・自己管理能力を育成し、協働して課題解決に臨むことを通して、新しい出会いから始まる人間関係を築き、自己理解に基づいたキャリアデザインを考える。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①自己理解を深めることができる。(第1回～3回) ②労働に関する知識を深め、労働について考えることができる。(第4回～5回) ③就職や進学を想定した事業所や学校等を調べ、まとめることができる。(第6～7回) ④自己理解に基づいたキャリアデザインを考え、レポートを作成することができる。(第8回)					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 自己理解①：自分の長所や強みをワークシートにまとめる。			自覚している自分の長所や強みを3つ考えておく。(1時間)		
2) 自己理解②〈グループワーク〉：グループに分かれ、自己紹介をしながらコミュニケーションをとることを通して、自覚していなかった自身のよさに気づき、新たに発見した自分の長所や強みをワークシートにまとめる。			自分の長所や強みを踏まえた自己紹介を考え、話すことができるようにしておく。(1時間)		
3) 自己理解③〈ゲストスピーカー〉：外部講師（キャリアコンサルタント）の講義を通して自己理解を深める。					
4) 労働法①〈グループワーク〉：グループに分かれ、労働法を調べ、協働してワークシートにまとめる。					
5) 労働法②〈ゲストスピーカー〉：外部講師（社労士）の講義を通して、労働についての知識を深める。					
6) 事業所研究①〈グループワーク〉：グループに分かれ、保育や教育に関わる施設の種類の種類を調べ、ワークシートにまとめる。					
7) 事業所研究②：就職あるいは進学希望先を調べ、ワークシートにまとめる。 進路就職希望調査：調査票に記入・記述する。			就職希望先の事業所あるいは進学希望先の学校などのHPを閲覧しておく。(1時間)		
8) まとめ：学習を振り返り、自己理解にもとづいたキャリアデザインを考え、レポートを作成する。					
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 (100%)	ワークシート (70%、第1～7回) 授業内レポート (30%、第8回)				
②実技・作品発表等 () %					
【定期試験】					
①筆記試験 () %					
②レポート () %					
③実技試験 () %					
④面接試験 () %					

平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
第8回でまとめてフィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-PC-50-82

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) キャリアアップ教育Ⅱ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 加藤 友彦	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
□ 実務経験					
[授業の目的・ねらい] キャリア教育の第2段階と位置づけ、キャリア教育における基礎的・汎用能力のうち、主にキャリアプランニング能力を育成する。専門職の課業の考察と事業所研究を通して職業観を培い、自己理解と職業理解に基づき、就職先や進学先を想定した履歴書を作成する。次年度の就職活動や進学準備を踏まえたキャリアデザインを考える。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 社会に貢献できる人となるために、社会人として必要な知識、教養、コミュニケーション力、人間性を身につける。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ①専門職の課業について理解を深めることができる。 ②就職先や進学先を調べ、概要をまとめることができる。 ③就職先や進学先を想定して、自己PRと志望動機を考え、履歴書を作成することができる。 ④就職先や進学先を想定したキャリアデザインを考え、レポートを作成することができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション：授業の概要を把握し、学習の見通しを持つ。 職業理解①：社会人基礎力を自己分析し、ワークシートにまとめる。					
2) 職業理解②：保育者の課業を分析し、ワークシートにまとめる。					
3) 事業所研究①：就職あるいは進学希望先を調べ、ワークシートにまとめる。 進路就職希望調査：調査票に記入・記述する。			就職あるいは進学希望先を3つ程度考えておく。(1時間)		
4) 履歴書①：履歴書の記入・記述事項を確認し、氏名・学歴(職歴)・資格等をワークシート(履歴書)に記入・記述する。			学歴(職歴)、取得している資格について調べておく。(1時間)		
5) 履歴書②：自分の長所や強みを踏まえた自己PRと、資格等をワークシート(履歴書)に記述する。			「キャリアアップ教育Ⅰ」の学習を踏まえて、自己PRの文章を考えておく。(1時間～2時間)		
6) 履歴書③：就職希望先を想定した志望動機をワークシート(履歴書)に記述する。			事業所研究(第3回)の学習を踏まえて、志望動機の文章を考えておく。(1時間～2時間)		
7) 事業所研究②：実習先の保育の特色をまとめ、発表する。発表者以外は、各施設の特色をワークシートにまとめる。					
8) まとめ：学習を振り返り、自己理解と職業理解にもとづいてキャリアデザインを考え、レポートを作成する。			返却されたワークシートをまとめておく。(1時間)		
[使用テキスト] なし					
[参考文献] なし					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認(100%)	ワークシート(40%、第1～3・7回) 履歴書(30%、第4～6回) 授業内レポート(30%、第8回)				
②実技・作品発表等(%)					
【定期試験】					
①筆記試験(%)					
②レポート(%)					
③実技試験(%)					
④面接試験(%)					

平常点評価	<input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する
	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法]	
第8回でフィードバックを行う。	
[備考]	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-PC-50-83

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育基礎ゼミ I		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田弘行・加藤友彦・舟越美幸 増原真緒・長島佳奈	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	1 Semester 卒業必修
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 大学生としての基本的な学習姿勢を身に付ける。入学前教育で取り組んだ課題を元にレポートの書き方を身に付けるとともに、グループディスカッションやプレゼンテーションを効果的に実施するための留意点を、演習を通じて学ぶ。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 大学で自律的に学ぶことを見通し、基本的な学び方(課題に応じた情報や文献の検索、読解と内容の要約、レポートの記述、ディスカッション等)を習得させることを目指し、複数の教員が分担して授業をおこなう。					
[授業修了時の達成課題(到達目標)] 1. 課題に応じた情報や文献を検索・収集することができる。 2. 情報や文献を読解し、内容の要約やレポートを作成することができる。 3. レポートでまとめたことを他者にわかりやすく伝えることができる。 4. 個々の役割を意識し、話し合いをすることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) アイスブレイク/自律的な学びのための心構え/情報の整理 ・大学生としての基本的な学びの姿勢を理解する。 担当者：増原・舟越・長島					
2) 授業前後の情報収集の仕方と情報の整理 ・図書館の利用、文献検索の方法、情報収集の方法について理解する。 ・図書館司書による講義 担当者：加藤					
3) 情報収集の仕方と情報の整理 ・文献を読み解く際に必ず押さえるポイントを理解する。文献の内容をノートに記録する方法を確認する。 担当者：加藤					
4) レポートの作成①：レポートの枠組み ・大学の授業で課されるレポートを理解する。テーマ設定からレポート作成に至る手順を学ぶ。 担当者：堅田					
5) レポート作成②：文献の活用と注意事項 ・文献の内容をどのようにレポートに記述するのかを学ぶ。レポート作成における注意事項を学ぶ。 担当者：堅田					
6) 論証の方法① ・論証とは何か、よい論証と悪い論証について理解する。 担当者：加藤					
7) 論証の方法② ・演繹席論証、帰納的論証、アブダクション、仮説演繹法、アナロジーについて学ぶ。 担当者：加藤					
8) レポート作成③：レポート課題の作成 ・入学前教育をもとに指定された課題に対するレポートを作成する。 担当者：堅田					
9) レポート作成④ ・提出したレポートの添削をもとに、レポートに修正を加える。					

担当者：堅田、加藤、舟越、増原、長島	
10) プレゼンテーション① ・プレゼンテーションの基本を学ぶ。作成したレポートをもとに発表用のレジュメを作成する。 担当者：長島、舟越	
11) プレゼンテーション② ・パワーポイントでの資料作成の基本を学ぶ。講義をもとにパワーポイント資料を作成する。 担当者：長島、舟越	
12) プレゼンテーション③ ・グループに分かれてプレゼンテーションをおこなう。（個人発表） 担当者：堅田、加藤、舟越、増原、長島	発表のための準備と練習をおこなう。(2時間)
13) グループディスカッション① ・グループディスカッションの意義や目的について理解する。 担当者：増原、堅田	
14) グループディスカッション② ・指定したテーマについてグループディスカッションをする。 担当者：堅田、加藤、舟越、増原、長島	
15) グループディスカッション③ ・指定したテーマについてグループディスカッションをする。 担当者：堅田、加藤、舟越、増原、長島	
[使用テキスト] 保育・幼児教育学科、『レポート作成の手引き』 保育・幼児教育学科、『2024年度入学生 入学前学習 学習用テキスト』, 2023. 中坪史典他、『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』, 2021, ミネルヴァ書房.	
[参考文献] 戸田山和久、『新版 論文の教室』, 2018, NHK 出版. 野田晴美他、『グループワークで日本語表現力アップ』, 2016, ひつじ書房.	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認 (40%)	第8回・第9回で提出するレポート
②実技・作品発表等 (%)	
【定期試験】	
①筆記試験 (%)	
②レポート (60%)	グループディスカッションのテーマに関するレポート課題によって評価する。
③実技試験 (%)	
④面接試験 (%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] レポートの評価のポイントを掲示する。	
[備考] ・第8回～第12回は各自ノートパソコンを準備すること。但し、第10回～第12回において、所有するノートパソコンに「PowerPoint」がインストールされていない場合は、事務センターに大学のパソコンの貸し出しを申し出ること。 ・B5もしくはA4サイズのノート（大学ノート）を準備することが望ましい。 ・各回の授業終了後に課す「振り返りシート」の提出を平常点評価とする。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-S-50-86

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 保育基礎ゼミⅡ		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 堅田弘行・加藤友彦・舟越美幸 増原真緒・長島佳奈	
授業の回数	15回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター 卒業必修
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもを取り巻く社会の仕組みを理解し、その課題やあり方について研究し、提案するために、次のことを目的・ねらいとする。 1. 保育・幼児教育・子育て支援に関する身の回りの現象や問題に気づき、児童福祉・幼児教育の課題として設定できる。 2. 設定した課題について、問題解決に向けた研究の方法を理解し、追求できる。 3. 卒業研究のテーマを設定し、研究の見通しをもつ。					主に対応するDP 5
[授業全体の内容の概要] 第1回では卒業研究の見通しをもつためにガイダンスをおこなう。第2回～第6回はグループディスカッションを通してテーマの探求をおこなう。第7回～第10回は研究法について講義をおこなう。第11回授業終了後、所属するゼミの希望をとり、第12回以降は新たなゼミに分かれて指導をおこなう。複数のゼミが合同で授業をおこなう場合がある。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] 1. 日常生活における保育・幼児教育・子育て支援に関する気づきや他の授業科目の学習等の中から研究テーマを定めることができる。 2. 研究方法について検討し、研究の見通しをもつことができる。 3. 研究スケジュールを他者にわかりやすく説明できる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) 研究と授業の違い／研究の進め方／個人研究とグループ研究の流れ 担当者：加藤、舟越					
2) 研究テーマの探求① ・ゼミごとに教員が設定したテーマに基づいて文献研究やグループワーク、グループディスカッションをおこなう。			ゼミ指導教員によって示された課題などをおこなう。(1時間)		
3) 研究テーマの探求② ・ゼミごとに教員が設定したテーマに基づいて文献研究やグループワーク、グループディスカッションをおこなう。			ゼミ指導教員によって示された課題などをおこなう。(1時間)		
4) 研究テーマの探求③ ・ゼミごとに教員が設定したテーマに基づいて文献研究やグループワーク、グループディスカッションをおこなう。			ゼミ指導教員によって示された課題などをおこなう。(1時間)		
5) 研究テーマの検討① ・ゼミごとに保育・幼児教育に関わる身近な疑問からBS法とグループディスカッションをおこなう。			ゼミ指導教員によって示された課題などをおこなう。(1時間)		
6) 研究テーマの検討② ・ゼミごとにKJ法とグループディスカッションをおこなう。			ゼミ指導教員によって示された課題などをおこなう。(1時間)		
7) 保育研究にみられる研究法① ・観察法と面接法を学ぶ。 担当者：堅田			『教育研究のための質的研究法講座』のp2～p19上半分を読む。(0.8時間)		
8) 保育研究にみられる研究法② ・質問紙調査法を学ぶ。 担当者：堅田			『教育研究のための質的研究法講座』のp19上半分～p50を読む。(1.2時間)		
9) 研究アプローチと研究デザイン／質的研究法の概要 担当者：堅田			『教育研究のための質的研究法講座』のp51～p73を読む。(1時間)		
10) 質的研究法の実践 担当者：堅田					
11) 各ゼミにおける主な研究テーマの紹介／研究テーマの検討			卒業研究で取り上げたいテーマの候補を考え		

担当者：堅田、加藤、舟越、増原、長島	ておく。(2時間)
12) 研究スケジュールの検討①／研究活動①	ゼミ指導教員の指導のもと課題作成や文献研究をおこなう。(2時間)
13) 研究スケジュールの検討②／研究活動②	ゼミ指導教員の指導のもと課題作成や文献研究をおこなう。(2時間)
14) 研究スケジュールの検討③／研究活動③	ゼミ指導教員の指導のもと課題作成や文献研究をおこなう。(2時間)
15) 研究スケジュールの発表	決められた発表時間内に発表できるよう要点をまとめておく。(2時間)
[使用テキスト] 保育・幼児教育学科、『レポート作成の手引き』 保育・幼児教育学科、『卒業研究の手引き』, 2024. 中坪史典他、『保育・幼児教育・子ども家庭福祉辞典』, 2021, ミネルヴァ書房. 関口靖広、『教育研究のための質的研究法講座』, 2016, 北大路書房.	
[参考文献] 戸田山和久、『新版 論文の教室』, 2018, NHK 出版.	
[試験の方法と学修成果の評価基準]	
【平常試験】	
①到達度の確認(40%)	第12回～第14回の取り組み姿勢や態度、提出物によって評価する。
②実技・作品発表等(30%)	第15回の発表内容や姿勢、態度によって評価する。
【定期試験】	
①筆記試験(%)	
②レポート(30%)	次年度の研究計画の予定について問う課題によって評価する。
③実技試験(%)	
④面接試験(%)	
平常点評価	<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない
[フィードバックの方法] レポートの評価のポイントを掲示する。第15回の発表に対して教員が評価や個々の課題についてコメントする。	
[備考] ・第1回～第11回の授業終了後に課す「振り返りシート」の提出と内容を平常点評価とする。	

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-S-50-87

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 音楽 I b (理論・声楽)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 長島 佳奈	
授業の回数	8 回	時間数(単位数)	1 単位	配当	2 セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもの歌の楽譜の多くにはコードネームも書いてあるため、コードネームの理解は必須であるとともに、簡易伴奏法の基礎知識にもなる。そして、簡易伴奏法の基礎知識は、ピアノ初心者が弾き歌いのレパートリーを増やすための手段にもなる。理論では、保育現場で実践できるコードネームを学習し、楽譜に書いてあるコードネームを見ながら演奏できる力を養うことを目的とする。声楽では、声域の拡大、発声方法や自己表現力などの向上を目指すとともに、保育・幼児教育の現場で使われる歌唱曲を用いた音楽活動を展開する力を養うことを目的とする。					主に対応する D P 4
[授業全体の内容の概要] 弾き歌いするためのコードネームの基礎知識について講義をする。その基礎知識を踏まえて、子どもの歌のコードネームを見ながら弾き歌いをするためのレッスンをを行う。また、保育・幼児教育現場でよく使われる歌唱曲を全員もしくはグループに分かれて歌い、それらの歌を通してどのような音楽活動ができるのかを考察していく。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・楽譜に書いてあるコードネームを見ながら簡易な伴奏で演奏することができる。 ・保育・幼児教育現場で使われる歌唱曲を、子どもたちと一緒に歌うことを想定しながら、表現豊かに歌うことができる。 ・歌唱曲を用いた音楽活動を考えることができる。					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション 音楽理論の復習/発声法/コードネーム①主なコードの種類			前回の授業の復習を行い、歌唱と簡易伴奏の練習を行うこと (30 分～1 時間程度)。		
2) コードネーム②ハ長調のコード/「春の歌」の歌唱の実践			〃		
3) コードネーム③ヘ長調のコード/「夏の歌」の歌唱の実践			〃		
4) コードネーム④中間発表会に向けて/「秋の歌」の歌唱の実践			〃		
5) 中間発表会 (実技発表会)			〃		
6) コードネーム⑤ニ長調のコード/「冬の歌」の歌唱の実践			〃		
7) コードネーム⑤ト長調のコード/卒園式に用いられる歌の合唱			〃		
8) 実技試験に向けた練習			〃		
[使用テキスト] 『こどものうた 100』チャイルド社 『こどものうた 200』チャイルド社 『子どものための音楽表現技術—感性と実践力豊かな保育者へ』萌文書林					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 () %					
②実技・作品発表等 (30 %)		第 5 回目に実技発表会をします。			
【定期試験】					
①筆記試験 () %					
②レポート () %					
③実技試験 (70 %)		コードネームを用いた弾き歌いの試験を行います。			
④面接試験 () %					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法] 毎回の授業時に、担当教員より課題に対するフィードバックを行う。					

[備考]

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-40-77

保育・幼児教育学科

授業のタイトル (科目名) 音楽Ⅱb (器楽)		授業の種類 (講義・演習・実技・実習) 演習		授業担当者 長島 佳奈	
授業の回数	8回	時間数(単位数)	1単位	配当	2セメスター
<input type="checkbox"/> 実務経験					
[授業の目的・ねらい] 子どもの豊かな感性と表現力を引き出すために、幼稚園教員や保育者として身につけておくべき基礎的なピアノ技術を習得することを目的とする。弾き歌いでは、聴き手への思いやりの心を持ちながら、その歌にあった弾き歌いとなるよう表現力にも磨きをかけていく。さらに保育室や発表会を想定して人前で演奏する体験をふまえ、保育者として演奏するときの心構えを身につけていくことをねらいとする。					主に対応するDP 4
[授業全体の内容の概要] 習熟度に応じた個別レッスンを展開する。ピアノの基礎技術と表現技術の習得を図りながら、歌唱共通教材や『こどものうた』等で扱われるような曲の弾き歌いのレッスンを行う。					
[授業修了時の達成課題 (到達目標)] ・ピアノの基礎技術を習得し、ピアノ曲の演奏と弾き歌いができる。 ・各楽曲、歌に合った音楽的な感性や表現力を養い、子どもたちが好きな歌を表情豊かに歌うことができる					
[授業の日程と各回のテーマ・内容・授業方法]			[準備学修の内容]		
1) オリエンテーション バイエル 51～59/春・夏・秋・冬の歌の弾き歌い					
2) バイエル 60～69/春・夏・秋・冬の歌の弾き歌い			事前に指定される課題について、授業時間外で十分に練習を行ったうえで授業に臨み、練習状況を記録し、自分の状況を自覚しながら学習を進めること。(各1時間～3時間)		
3) バイエル 70～79/春・夏・秋・冬の歌の弾き歌い					
4) 中間発表会 (ピアノ曲と弾き歌い) 担当教員による講評および受講生同士の振り返り					
5) バイエル 80～89/通年・生活の歌の弾き歌い					
6) バイエル 90～100/通年・生活の歌の弾き歌い					
7) 発表会に向けての仕上げ					
8) 発表会 (ピアノ曲と弾き歌い)					
[使用テキスト] 『標準バイエルピアノ教則本』全音楽譜出版 『こどものうた100』チャイルド社 『こどものうた200』チャイルド社 適宜、個人の習熟度に合わせて様々なテキストを薦める。					
[参考文献]					
[試験の方法と学修成果の評価基準]					
【平常試験】					
①到達度の確認 () %					
②実技・作品発表等 (100%)		中間発表会 (40%)、発表会 (60%) で評価します。			
【定期試験】					
①筆記試験 () %					
②レポート () %					
③実技試験 () %					
④面接試験 () %					
平常点評価		<input checked="" type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味する <input type="checkbox"/> 受講態度その他必要と認められる事項を学修成果の評価に加味しない			
[フィードバックの方法]					

毎回の授業時に、担当教員より課題に対するフィードバックを行う。発表会では講評および振り返りを行う。

[備考]

履修者数を定員 12 名とし、上限を超える履修希望が出た場合、抽選を行います。

※使用テキスト及び参考文献は図書館に納められています。

1-B-40-79